

日本古典文学における月忌避表現と形成過程

The Formation of Lunar Avoidance in Classical Japanese Literature

高鍋高等学校 2年 名前 児玉莉乃

Abstract: This study examines the symbolism of the moon in classical Japanese literature, focusing on its ambivalent portrayal in *Taketori Monogatari*. Although the moon is generally associated with beauty and longing, this work depicts it as something to be avoided. Through corpus analysis and a review of previous studies, this research suggests that *Taketori Monogatari* may represent the origin of lunar avoidance in Japanese literature and considers the influence of Chinese poetry, especially Bai Juyi's works. The results show that such negative imagery did not become dominant and that, from the mid-Heian period onward, the moon came to be valued mainly as a symbol of beauty.

Keywords: moon / *Taketori Monogatari* / symbolism / Chinese poetry

1. 研究背景

昨年の留学中に感じたホームシックを経験し、「郷愁」という感情に興味を持った。また以前から興味があった古典文学の中でも、特に阿倍仲麻呂の和歌「天の原 ふりさけみれば 春日なる 三笠の山に いでし月かも」に注目した。この歌では、月が故郷と自己をつなぐ象徴として機能していることがわかる。その後、先行研究から『竹取物語』の作中では月が両義性を持つことを知り、日本語コーパスを用いて『竹取物語』における「月」の用例を調査した。その結果、「月の顔見るは忌むこと」という表現が一例のみ確認され、月が忌避すべき対象として描かれていることが明らかになった。このような、月を見てはいけないものとする表現は、現在一般に共有されている月の象徴（美・郷愁・憧れ）とは大きく異なる。また、この表現の注釈に白居易の『白氏文集』の影響が示唆されている。以上のことから、日本古典文学における月の忌避表現とその成立過程を調査した。ここでは月を見てはいけないものとするを「月忌避」として扱う。

2. 研究目的・意義

本研究は以下の目的を持つ。

1. 日本古典文学において「月を忌む」という発想がいつ・どのように成立したかを明らかにする。
2. 『竹取物語』の月忌避表現と中国詩文、特に白居易『白氏文集』との関係を検討する。
3. その後の文学における月の象徴の変化（忌避→美）を整理し、月忌避表現の形成過程を明確にする。

3. 研究方法

(1) コーパス調査

日本語コーパスを用いて「月」の言及・忌避表現を検索する。対象は以下の通り。

- ・『万葉集』
- ・『竹取物語』以後の主要な物語文学（『伊勢物語』『源氏物語』など）
- ・三代集（『古今和歌集』『後撰和歌集』『拾遺和歌集』）

(2) 文献調査

『竹取物語』の成立年代を先行研究、奥津春雄[6]・室伏信介[7]らの論文から整理し、中国詩文の伝来期および関連文献を検討する。さらに、関連論文・注釈書を比較検討する。

4. 結果・考察

(1) 日本における月忌避表現の起源について

『万葉集』に月忌避表現は確認されなかった。一方、『竹取物語』には明確な忌避表現が一例のみ見られる。また、『竹取物語』以降の文学では、『伊勢物語』『源氏物語』『古今和歌集』『後撰和歌集』にそれぞれ1例ずつ確認されるが、用例は少数にとどまる。

(表1)

作品	月=忌む表現
伊勢物語	おほかたは月をもめでじこれぞこのつもれば人の老いとなるもの
源氏物語	月見るは忌みはべるものを。
古今和歌集	(伊勢同様)
後撰和歌集	月をあはれというはいむなり

以上より、日本文学における月忌避表現の原点は『竹取物語』にある可能性が高いと考えられる。

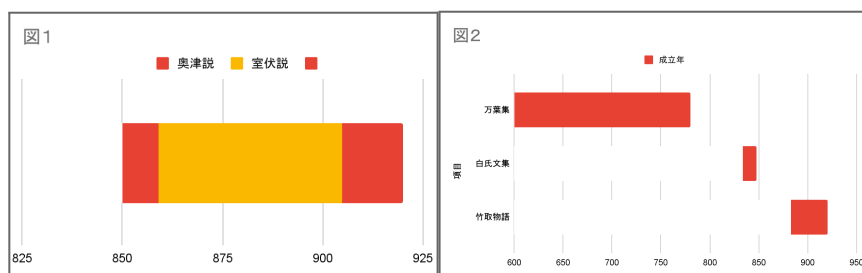
(2)『白氏文集』との関係

奥津は『竹取物語』の成立期を承和から延期の間(9世紀後半~10世紀初頭)に『その成立期を貞観時代に置くことが竹取に関する諸条件から見て妥当』とし、竹取成立年を850~920年と推定している。

室伏は、富士山噴火後の煙を見立てた描写である「その煙、いまだ雲の中へ立ち昇るとぞ言ひ伝へたる」(『竹取物語』末尾)より富士山の噴火が竹取成立年推定の手がかりだとしている。富士山の噴火(781~1707年)計13回あり、近年神代ヒノキの死滅年が883年だとわかったことから、883年噴火の可能性をふまえ、883年が含まれる貞観後半から延喜前半と竹取成立年を推定している。両説を総合し、この研究では竹取成立年を883年以降と仮定する。(図1)

この時期は白居易『白氏文集』の日本伝来期と重なり(図2)さらに『源氏物語』(宿木巻)の注記には、月を忌む発想が中国詩文に由来することが示されている。

また先行研究(本間悠子[9]、奥津春雄)も、漢詩における月の描写と『竹取物語』の関連を指摘している。これらから、『竹取物語』の月忌避表現は、白居易の影響を受けた可能性が高い。



(3)『竹取物語』以後の受容と変化

文献調査を進めた結果、『平安中期から中世にかけて積極的に美が発掘されるようになる』記述[10]が見られることから、平安中期以降、月は美的対象として再評価され、「月＝美」の象徴性が主流化する。月忌避表現は少数例にとどまり、主流思想とはならなかった。したがって、月忌避表現は一時的・限定的に受容された表現であり、

やがて美的象徴へと転化していったと考えられる。

時期	文学作品	月の象徴
7世紀~	万葉集	【肯定】素朴に月を愛でる
834-848年	白氏文集(成立)	中国文学の影響が強まる
850-920年	竹取物語(成立)	【忌避】月は「別れ」の象徴へ
平安前期	伊勢物語・源氏物語	忌避感が残る(散発的な描写、(表1)参照)
平安中期以降	和歌・随筆など	【再評価】月の美しさが定着

5. 結論及び今後の展望

本研究は、「月を忌む」という発想が日本に『竹取物語』を起点として現れ、中国詩文の影響を受けた可能性が高いことを示した。同時に、この表現が日本文学において一時的・限定的にしか定着せず、平安中期以降は月の美が主流となる過程も明らかにした。

今後の課題として、①漢詩における月忌避表現を体系的に整理し、白居易に限らず唐詩全体の価値観を検討すること、②『和漢朗詠集』などを中心に、平安貴族文化の中で月忌避がどの程度浸透し、どのように美的表象へ再評価されていったのかを追究すること、③現代において月忌避の概念が共有されていない文化的要因を中国文学との比較研究の側面から考察することなどが挙げられる。

引用参考文献

- [1] 朝川明日香. 月が照らす『竹取物語』の可能性:「月」に着目した『竹取物語』の指導. 2016.
- [2] 竹田和未. 「日本古典文学における『月』について—竹取物語・源氏物語・徒然草を中心に—」『たまゆら』第24号.1993.
- [3] 小学館. 日本古典文学全集8 竹取物語 伊勢物語,1972
- [4] 笹川博司, and ササガワヒロジ. “平安文学と月.” 大阪大谷大学 STEAM Lab 紀要 1 (2021): 15-17.
- [5] 小学館. 日本古典文学全集2-5 萬葉集全4巻,
- [6] 竹取物語の成立年代について.奥津春雄
- [7] 室伏信助.竹取物語の文体形成について<特集>『竹取物語』の視界 39 巻 5 号 p. 41-49.1990.
- [8] 小学館. 日本古典文学全集16 源氏物語5巻,
- [9] 『竹取物語』と漢詩文: 竹と月の結びつき.本間悠子
- [10] 角川書店. 歌ことば歌枕大辞典.1999 p561-562.

悲劇に惹かれる心理メカニズム

The psychological mechanism behind human attraction to tragedy

清風南海高等学校 2年E組 家治 娃柚美

Abstract : This study proposes that the appeal of tragedy stems from the death drive, expressed as latent masochism. Tragedy allows people to safely experience symbolic suffering, discharging destructive impulses without real risk. On the other hand, excessive empathic pain triggers defense mechanisms, causing some people to avoid tragedy altogether.

Keywords : tragedy, latent masochism, death drive, safe suffering, defense mechanisms

1. 研究背景

古くから広く人気を集めている悲劇的物語は数多く存在する。これは人が悲劇に魅力を感じていることの証左であるが、人は、悲劇に惹かれる一方で、不快な感情も生じるという心理的パラドックスを抱えている。映画や小説を見るなかで、登場人物の不幸な出来事を目にして不快を感じたのにも関わらず、再度悲劇を見たいと考えるようになる人は少なくない。従来、このような悲劇の鑑賞者の心理は、アリストテレスが論じたカタルシス、すなわち感情の浄化作用によって説明されることが多かった。また、現代の研究では、「安全に苦痛を体験できる場」を提供する役割や、不快な感情の疑似的な体験としての捉え方が検討されてきた。しかし、実際に人が不快を伴う悲劇を好み、その苦痛を求めるに至る心理的プロセスについては未だ十分に解明されておらず、悲劇を嗜好する人の心理状態について解明したいと考えた。

2. 研究目的・意義

本研究は、悲劇を好んで見るに至る背景の心理的プロセスを明らかにすることを目的とする。そこで、美学論や悲劇論で議論される悲劇の「安全な苦痛」を求める原因を人の内的欲求として捉え直し、悲劇を好む心理の基盤を探る。本研究により、悲劇の役割についての新たな視点を得られ、美学および心理学における感情研究の理解が深まると考えられる。

3. 研究方法

本研究では、自ら立てた仮説に基づき、悲劇を「安全に苦痛を体験できる場」とする理論を基盤とし、美学的議論、感情研究、精神分析学（死の欲動・マゾヒズム論）など複数領域の文献を総合的に精査し、悲劇嗜好に関わる既存の枠組みを説明する。そして悲劇特有の特徴とその心理的役割を捉えたうえで、悲劇を好ましく思う人の心理的プロセスを組み立て、概念モデルとして提示する。また、悲劇に不快感を覚える人に見られる心理作用についても、同様の手順で考察する。

4. 結果・考察

本研究では、悲劇を、「破滅や不幸を主題とし、観客に強い感情的反応や心理的動揺を引き起こす芸術形式」と定義する。悲劇を主題とする作品は広い分野で見られるが、とくに映画や小説等の、鑑賞者が物語性を捉えやすい分野を取り上げる。

人が悲劇に惹かれる理由は、人が不快な感情を得たいというマゾヒズム的欲求を持っているからであると仮定した。しかし、不快な感情を得るためという動機は一般的なものではないと考えられ、悲劇が広く人気を得ていることの要因とするには不自然である。

ここで、死の欲動（ジークムント・フロイト、1920）を引用する。フロイトは、人間の精神には生

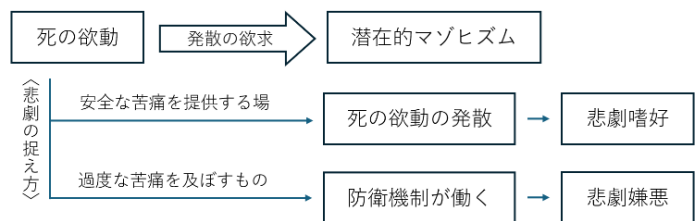
命維持を志向する生の欲動（Eros）と、無機の状態への回帰を求める死の欲動（Thanatos）が共存すると論じた。死の欲動は自己破壊性や攻撃性として現れるとされ、後続の精神分析学でも破壊衝動の基礎概念として扱われてきた。これに基づき、死の欲動が内在化されることで生じる自己破壊欲により、悲劇が、死の欲動の発散の場としての機能を持つようになる。

一見、悲劇鑑賞で自己破壊欲を満たすという論理は飛躍しているように思えるが、悲劇への感情移入は、鑑賞者自らのものとしての不幸の疑似体験を可能にさせる。疑似体験によって、鑑賞者は、自らの安全が保障された状態で、個人的な体験として不快を得ている。悲劇で得られる安全な苦痛の役割についてはこれまでも多く議論されており、それにより、内的な死の欲動を躊躇せず発散できるのである。死の欲動を人の根本にある精神と考え、その発散は、自分への危害がない状態で苦痛を安全に経験したいという欲求として表れていると見て、これを潜在的マゾヒズムと捉える。

ここまで、悲劇を嗜好するメカニズムについて解明した。しかし一方で、世間には悲劇を嫌悪する人も存在する。前述のように、死の欲動を人の根本にある精神と考えるなら、死の欲動の発散は必要なものであり、悲劇嫌悪の心理は生じえないように考えられる。

悲劇嫌悪の心理は、死の欲動の不在ではなく、悲劇の持つ、安全な苦痛を提供するという役割が破綻している場合に生じるものだと考えられる。この破綻は、鑑賞者が共感に伴う苦痛を過度に感じたときに働く防衛機制（アンナ・フロイト、1936）が要因である。防衛機制とは、不安や脅威から自我を保護する無意識的な防衛本能のことである。悲劇の持つ、死の欲動の発散の場としての役割は、安全な苦痛を得られるという利点により機能するのであり、苦痛が安全だと感じられない鑑賞者にとっては、脅威となると考えられる。

これらを踏まえて、概念モデル図を作成すると右のようになる。鑑賞者に不快な感情を与える悲劇を嗜好または嫌悪する要因は、死の欲動という心理作用の影響であると考察される。



5. 結論及び今後の展望

本研究で立てた仮説は、人が悲劇に惹かれる理由は、人が不快な感情を得たいというマゾヒズム的欲求を持っているからだというものであった。この欲求は、死の欲動によって引き起こされ、潜在的に働くものであるという解釈を加えると、理論的には概ね正しいと捉えることができる。

この研究では、悲劇の役割を、横断的な分析をもとに捉えており、総合的な客観性と普遍性を備えていると考える。悲劇を鑑賞する際、本研究の仮説が役割のひとつとして機能していると考えられるが、それぞれの領域で、他の要素と融合し、実際にどのような効果が生まれるかについては予測できず、更なる研究が必要である。

引用文献

- ・ アリストテレス. 藤田嗣治・谷口幸男（翻訳）. (1973) 『詩学』 岩波文庫.
(Aristotle. (c. 335 BCE) 『Poetics』 London: Macmillan.)
- ・ Freud, S. (1920) 『Beyond the pleasure principle』 International Psycho-Analytical Press
- ・ Freud, S. (1924) 『The economic problem of masochism』 International Journal of Psycho-Analysis, 5, 207-212.
- ・ Jonathan Gilmore. (2025) 『Paradox of Tragedy』 Stanford Encyclopedia of Philosophy.
<https://plato.stanford.edu/entries/paradox-of-tragedy/> (2025/11/25)
- ・ 佐藤 普美子, 河谷 淳. (2018) 『朱光潜『悲劇心理学』における悲劇論の検討』
駒澤大学総合教育研究部

コウメ太夫の文章はAIに似ているのか

Does Dayu Koume's writing resemble AI?

宮崎県立宮崎東高等学校定時制課程夜間部 4年A組 甲斐 優太

Abstract: We analyzed Dayu Koume's long-running "Mainichi Chikusho" posts using a bigram Markov model trained on his historical data. Human evaluators often failed to distinguish between authentic posts and those generated by our model, and frequently interpreted Koume's own grammatical breakdowns as machine-like errors. These findings indicate that Koume's linguistic output statistically resembles that of an early rule-based AI system rather than that of a human writer.

Keywords: Artificial Intelligence (AI); Bigram Markov Model; Turing Test; Koume Syntax; OCR Error

1. 研究背景

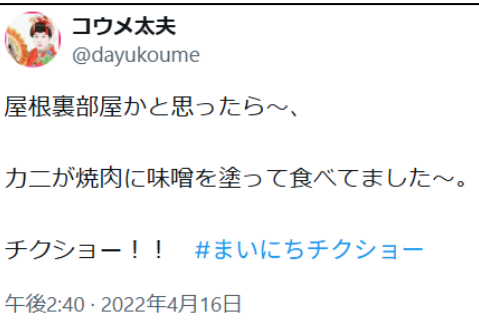


図1 コウメ太夫による「#まいにちチクショー」の投稿例(出典:[1])

近年、大規模言語モデル(LLM)は目まぐるしい進化をしており、人間の書く文章とAIの書く文章の識別は困難になり、一般社会でも「作文コンクール」において生成AIの使用が指摘される事例が報告されている[4]。ただ、それ以前の2016年から現在に至るまで、お笑い芸人である「コウメ太夫」はXで毎日ネタを投稿する「#まいにちチクショー」を現在に至るまで継続している(図1)[1]。*以降はまいチクを使用する。彼のネタには「〇〇ったら〜、△△でした〜。」というテンプレートがあり、その文章の特徴から、一部では「AIではないか」という説がささやかれている[5]。

2. 研究内容

本研究では、コウメ太夫の投稿群を「Koume システム」と定義し、以下の2つのリサーチクエストを設定する。

- 「Koume システム」は文章の理解を学習し意図的に生成する意味理解を必要とするか。あるいは、マルコフ連鎖のような確率的な方法でも十分に再現可能なのか。
- アンケート内でコウメ太夫とAI生成のネタをランダムに混ぜ、26人を対象に実施し識別できているか。

これらを通じて、人間の言語表現が必ずしも意味理解に基づいていない可能性、すなわち人間が統計的言語モデルに酷似した出力を示しうる条件を明らかにすることを研究の目的とする。

3. 研究方法

3.1 データ収集

2016年3月2日から2025年8月7日までに投稿された「#まいにちチクショー」のオリジナルネタ615件を手動で収集した[1]。その後、対象データをPythonおよび、Janomeを使用し単語単位に分割したうえで学習データとした[2]。本研究の目的は、定型構文に基づく言語生成特性の分析であるため、当該フォーマットに該当しない投稿は統計的外れ値として除外した。

3.2 モデル設計

本研究では、Deep Learningのような意味理解を伴うモデルではなく、直前の2語から次の語を予測するだけの単純な「2語マルコフ連鎖」を採用した(図2)[6]。これはコウメ太夫の芸風である「文脈のなさ」が、確率統計的な後のつながりに酷似しているという仮説に基づく。

```
def generate_sentence(chain, max_len=60): # 最大長を長く設定(長いネタにも対応)
    state = ("<START>", "<START>")
    result = []

    # 1単語ずつ確率的に生成
    for _ in range(max_len):
        if state not in chain:
            break

        # 確率に基づいて次の単語を選択
        # random.choicesで重み(出現頻度)に基づいて単語を選ぶ
        nxt = random.choices(
            list(chain[state].keys()),
            list(chain[state].values())
        )[0]
```

図2 本研究で使用した2語マルコフ連鎖モデルの概念図および実装例

3.3 評価実験

被験者26名には、以下2種類の文章を1:1の割合で、10個ランダムに提示し、「AIによって生成された文章」を5つ識別させるブラインドテストを実施した。**A群**: コウメ太夫本人による実際の投稿 **B群**: 本システムにより生成された文章

4. 結果

4.1 生成文章の特徴再現

単純なマルコフ連鎖モデルであるにも関わらず、生成された文章は意味の非連続性など、本人の特徴を極めて高い精度で再現した。

- 生成例: 「投票で行列できてて繋いで顔バックメロンでした〜。チクショー!!!」
- 生成例: 「教員免許かと思ったら〜、犬神家の体勢でした〜。チクショー!!!」

4.2 プライントテストの分析

被験者の回答を分析した結果、統計的有意差をもって正答率は低く、以下の興味深い「誤認パターン」が確認された[図3][図4]。

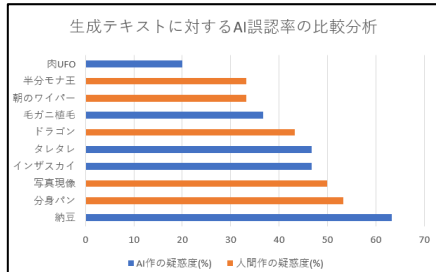


図3: 生成テキストに対するAI誤認率の比較分析

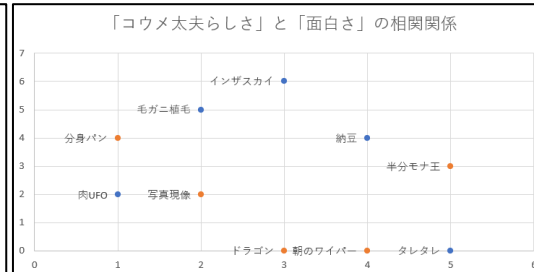


図4: 「コウメ太夫らしさ」と「面白さ」の相関関係

ブラインドテストと同時にしたアンケートには「ネタを見分ける上で、特に重視したポイントは何ですか?」という記述項目を用意している。そこには、「意味の無い言葉を並べているかどうか」や「日本語が下手」などで書かれていた。

本人の激しい文法崩壊は人間の文章とは思えずプログラムの不具合とみなされる傾向にあったが、対照的にAI生成文の意味不明さは高度なシュールリアリズムとして受け入れられるという傾向が見られた。

5. 考察

5.1 RLHF との対比

RLHFとは、人間のフィードバックによって生成AIの出力を自然に近づける調整過程である。これを行うことにより、現代の生成AIでは自然な対話を行っている。ただ、コウメ太夫の芸風では面白くも意味も通じていない。これは、人間への対話を意図的に排除した状況に酷似しており、観客への理解という報酬を目的としていない。「コウメ構文を完結させること」のみを過学習したシステムとしてふるまっていると考えられる。



5.2 「文字の崩壊」とレンダリングエラーの類似性

フリッパー芸や、手の甲に書いてあるネタのキャンペで「文字の崩壊」が見られる。これは、生成AIにおける画像生成時に起こる「レンダリング層の不具合(OCR的エラー)」と解釈できる[図5左][図6右]。人間が極限まで論理を手放した際に、その出力結果は、未成熟なAIが吐き出すエラーと識別不可能になることが示唆される。

図5(左) コウメ太夫のフリッパー芸における文字表記の崩壊例(出典:番組映像より引用) 図6(右) 画像生成AI「お絵描きばりぐっどくん」による文字生成エラーの例

6. 結論と展望

本研究は、人間が確率モデルに近い出力を示すという逆説的現象を示し、人間とAIの境界が統計的には極めて曖昧であることを示した。これは彼が生物学的には人間であるが、情報科学的には「人間を模倣しようとして失敗した初期AIシステム」として機能していることを強く示唆するものである。今後は短歌などの芸術も用いて検証することを検討している。

参考文献

- [1] コウメ太夫 (@dayukoume). "#まいにちチクショー". X (旧 Twitter). <https://x.com/dayukoume>, (参照 2025-08-07).
- [2] Uchida, Tomoko. "Janome: Python library for Japanese morphological analysis". Janome v0.4 Documentation. <https://mocabeta.github.io/janome/>, (参照 2025-08-07).
- [3] Turing, Alan. "Computing Machinery and Intelligence". Mind. 1950, vol. 59, no. 236, p. 433-460.
- [4] 朝日新聞社. "作文コンクールで「生成AI」指摘相次ぐ 見抜くツール開発は道半ば". 朝日新聞デジタル. <https://www.asahi.com/articles/ASS651JHQS65UTIL01XM.html>, (参照 2025-01-06).
- [5] 安藤匠耶. "人工知能にコウメ太夫さんのツイートを学習させてみた". Takuya Andou's Blog. https://blog.takuya-andou.com/entry/ai_koume, (参照 2025-01-06).
- [6] "マルコフ連鎖". Wikipedia. <https://ja.wikipedia.org/wiki/%E3%83%9E%E3%83%AB%E3%82%B3%E3%83%95%E9%80%A3%E9%8E%96>, (参照 2025-01-07).

アメリカバーモント州における無宗教者の増加と学歴との関係性について

The relationship between the increase in non-religious people and educational attainment in Vermont, USA

高知学芸高等学校 2年B組 河本初花

Abstract: This study aimed to examine the relationship between the increase in the proportion of non-religious individuals and educational attainment in Vermont. Using data from the Pew Research Center and FRED, we examined trends in the proportion of non-religious individuals and the rate of those holding a bachelor's degree or higher, comparing Vermont to the national average. The results showed an upward trend for both indicators in the state, confirming a strong positive correlation. These findings are consistent with modernization theory, which suggests that rising educational attainment may weaken religious involvement.

Keywords: non-religious, educational background, young people, political inclinations

1. 研究背景

Pew Research Center (2025)によれば、アメリカにおける無宗教者の割合は2007年の16%から2023-2024年には29%へと上昇している。またPRRI (2023)では、無宗教者の学士号以上取得率が38%であり、全米25歳以上の男女平均の35.7% (U.S. Census Bureau, 2022)を上回ると報告している。これらの結果は、無宗教者の増加と高い教育水準との関連を示唆する。本研究では教育水準を学歴と定義し、学士号以上の取得を高学歴とする。近代化理論 (secularization theory) は、教育水準の上昇が宗教的関与を弱める可能性を指摘しており (Berger, 1967; Norris & Inglehart, 2004)、本研究の理論的枠組みとなる。全米的傾向を踏まえると、州レベルで無宗教者と学歴との関係を検討する意義は大きい。特にバーモント州は、無宗教者の割合が46% (Pew 2023-2024)、学士号以上取得率が45.1% (FRED 2024)といずれも高い水準にある。しかし、州単位で無宗教者と学歴を体系的に分析した研究は十分でない。そこで本研究では、全米結果との比較を通じて、バーモント州における無宗教者割合と学歴との関係性を検討する。

2. 研究目的・意義

本研究の目的は、バーモント州における無宗教者の増加と学歴との関係を検討し、あわせて若年層の比率や政治的傾向といった社会的要因との関連を分析することである。本研究は、州単位で無宗教者と学歴および社会的要因と関連付けて検討する点に特徴があり、それらは教育水準や社会構造と宗教離れとの関係に関する理解を深めることにつながると考えている。

3. 研究方法

① データ収集

- バーモント州における無宗教者割合はPew Research Center およびPRRI から、学士号以上取得率 (25歳以上) はFRED から取得した。2007年および2020年の無宗教者割合は直接的なデータを得られなかったため、前後年の値を用いて線形補間により推定した。分析対象年は2014年、2020年、2023年、2024年の4時点とした。
- 年齢層別無宗教者割合は、バーモント州における詳細な年齢層別無宗教者データが得られなかったため、バーモント州の年齢構成 (Neilsberg) と全米の年齢別無宗教者割合 (Pew Research Center・RLS) を参照した。年齢区分は18-29歳に統一し、当該年齢層内の年齢分布は均等であると仮定した。なお、調査年は一致しておらず、本推定は年齢層別傾向を把握するための補完分析とする。
- 政治的傾向は、宗教構成や政党対立が比較的安定している2016年および2020年の大統領選挙における民主党候補投票率を主指標とし、直近データとの整合性確認のため2024年の結果を補完的に参照した。

② 年次推移の分析…各年の無宗教者割合および学士号以上取得率を折れ線グラフで示し、時系列の変化を可視化した。また、年齢層別無宗教者割合をグラフ化し、若年層の特徴を把握した。

③ 相関関係の確認…無宗教者割合と学士号以上取得率の関係について相関係数を算出した。なお、本分析は因果関係を示すものではない。

④ 政治的傾向との関連分析…民主党候補投票率を政治的傾向の指標とし、無宗教者割合の高い州における政治的傾向を記述

的に確認した。

⑤全州比較分析…全米 50 州の無宗教者割合と学士号以上取得率を散布図より比較し、バーモント州の位置づけを相対的に評価した。

4. 結果・考察

バーモント州では、2014 年以降、無宗教者割合および学士号以上取得率のいずれも上昇傾向を示し、両者の間には強い正の相関が確認された（相関係数 0.97）。また、全米 50 州を対象とした分析においても、無宗教者割合と学士号以上取得率の間に正の相関関係が認められ、バーモント州は両指標がともに高い水準に位置づけられた。一方で、無宗教者の増加要因として想定される若年層（18—29 歳）の割合については、バーモント州と全米平均との差が小さく、州間で大きな差は確認されなかった。

さらに、無宗教者割合の高い州では民主党支持率が相対的に高い傾向が見られたが、本分析は記述的比較にとどまり、因果関係を示すものではない。これらの結果は、教育水準の上昇が宗教的関与を弱める可能性を指摘する近代化理論と整合的である一方、政治的傾向を含む他の社会的要因の影響についても慎重な検討が必要であることを示唆している。

5. 結論及び今後の展望

本研究では、バーモント州における無宗教者割合と学歴との関係を検討した。その結果、同州では無宗教者割合と学士号以上取得率がともに上昇傾向を示し、両者の間に強い正の相関が確認された。また、全米比較においても同様の正の関連が見られ、バーモント州は無宗教者割合および学歴水準がともに高い州として位置づけられた。これらの結果は、教育水準の上昇が宗教的関与を弱める可能性を指摘する近代化理論と整合的である。一方で、本研究は州レベルの集計データおよび一部推定値に基づく分析であるため、個人レベルでの因果関係を直接検証することはできなかった。今後は、年齢や学歴、宗教意識、政治的態度を同時に把握できる個票データを用いることで、無宗教化の要因をより精緻に検討することが求められる。

引用・参考文献

- [1]Pew Research Center 「Decline of Christianity in the U.S. Has Slowed, May Have Levelled Off」 (2025)
https://www.pewresearch.org/wp-content/uploads/sites/20/2025/02/PR_2025.02.26_religious-landscape-study_report.pdf
- [2]PRRI 「The American Religious Landscape in 2023 (2024)
<https://prri.org/research/census-2023-american-religion/>
- [4]Pew Research Center 「Religious Landscape Study」 (2014, 2023-2024)
<https://www.pewresearch.org/religious-landscape-study/state/vermont/>
- [5]FRED 「Bachelor' s Degree or Higher for Vermont 」 (2024)
<https://fred.stlouisfed.org/series/GCT1502VT>
- [6]Pew Research Center 「Religious Landscape Study 」 (2023-2024)
<https://www.pewresearch.org/religious-landscape-study/age-distribution/18-29/>
- [7]Neilsberg 「Vermont Population by Age」 (2013-2023)
<https://www.neilsberg.com/insights/vermont-population-by-age/>
- [8]Pew Research Center 「Party identification among religious groups and religiously unaffiliated voters」 (2024)
<https://www.pewresearch.org/politics/2024/04/09/party-identification-among-religious-groups-and-religiously-unaffiliated-voters/>
- [10]Berger, P. L. The Sacred Canopy: Elements of a Sociological Theory of Religion. New York: Anchor Books. (1967)
- [11]Norris, P., & Inglehart, R. Sacred and Secular: Religion and Politics Worldwide. Cambridge: Cambridge University Press. (2004)

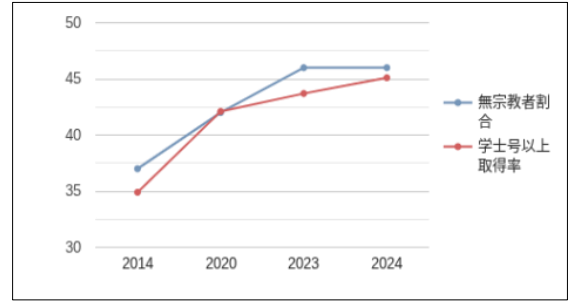


図1 バーモント州の宗教者割合と学士号以上取得者

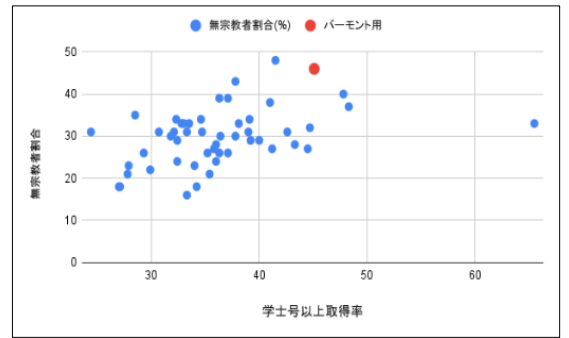


図2 バーモント州における無宗教者割合と学士号以上取得者の推移

辞書にみる子型の名前の変遷

The Name Ending in “-ko” in Japanese Dictionaries

島根県立松江北高等学校 2年16組 阿部明実

Abstract: Nowadays, the name ending in “-ko” is one of the typical female names in Japan, but in the past it was used as a male title of respect. I studied the background of this change by investigating old Japanese dictionaries. The definition of “-ko” as a type of female name first appeared in the Meiji era, while the usage of the word had already spread in the Nara period.

Keywords: Name, Gender, Dictionary

1. 研究背景

女性の典型的な名前の例として、「～子」というものがある（以降この名前の形を「子型」と呼ぶ）。実際、記入例として示される氏名の多くに「花子」が使われているほか、明治安田生命の「生まれ年別名前ベスト10」によると、近年では減少傾向にあるものの、1920～56年までのランキングベスト10がすべて子型の名前であった。このことから、子型の名前は長らく女性名の代表的な形式として広く用いられてきたことがうかがえる。

このように今では女性名の典型として認知されている子型の名前だが、過去には「小野妹子」「蘇我馬子」など、身分の高い男性への尊称として使われていた。

2. 研究目的・意義

本研究では、子型の名前が象徴する性別がどのように変化したのかを明らかにすることを目的として調査を行った。名前の変化は社会変化と密接に関わっており、これを明らかにすることは、当時の人々の考え方や社会の様子を知る上で意義があると考えられる。

3. 研究方法

(1) 「子」の持つ意味の調査

現存最古の日本製辞書である『篆隸万象名義』が成立した平安時代以降の、各時代の代表的な日本製辞書を用いて、「子」という字の持つ意味について調査を行った。また、日本の言語文化は中国に大きな影響を受けていることから、中国製辞書である『大広益会玉篇』（1013年）についても同様の調査を行った。取り扱う辞書は以下の通りである。

平安時代：『篆隸万象名義』『新撰字鏡』『類聚名義抄』『倭名類聚鈔』『大広益会玉篇』

鎌倉・室町時代：『字鏡集』『倭玉篇』『落葉集』

江戸時代：『日本積名』『東雅』

明治時代：『言海』

(2) 辞書に関する調査

(1)の結果から、性別に関する意味の記載があった日本製辞書についてその編者、成立の経緯、「子」の意味を取るうえで参考にした文献について先行研究や辞書の序文などを用いて調査を行った。

4. 結果・考察

(1) 「子」の持つ意味の調査

中国の漢字辞書である『大広益会玉篇』では「男子之通稱也。」という記載があることから、当時の中国では「子」という字は男性を象徴するような意味が強かったと考えられる。

一方、日本製辞書では『東雅』（1717～19 年頃成立）に「舊説に子といふは男之通稱也と見えたり。さらばコとのみいふは男子なる也。」という記載があったのに対して、『言海』（1884 年成稿、1881～91 年刊行）では「婦人ノ名ノ下ニツクル語」と記載されていた。このことから、『東雅』の成立から『言海』の成稿・刊行までの約 200 年の間に、日本における「子」という字の持つ意味が男性を象徴するものから女性を象徴するものへと変化していったと考えられる。しかし、『続日本紀』（797 年）から「〈子〉型の男性名は稀となり、〈子〉型・〈古〉型の女性名の漸増が続いた」ことがわかるという指摘もあり（橋本・井藤 2011）、時期のズレが見られた。このことから、なぜズレが生じたのかを、(2) を通じて考察する。

※『篆隸万象名義』『日本釈名』では、意味についての記載があったものの、性別に関する記載はなかった。

※『類聚名義抄』『字鏡集』『倭玉篇』『落葉集』については、文字が判別できない、意味らしき注が書かれていないなどの要因により字の意味を知ることができなかった。

(2) 辞書に関する調査

「子」の意味に関して、『新撰字鏡』（898～901 年頃成立か）は玄応『一切経音義』（7 世紀成立）、『倭名類聚抄』（934 年頃編纂）では『唐韻』（8 世紀成立）を出典としていると考えられる。どちらも中国の音義書、韻書である。また、『東雅』はその内容がほぼ『倭名類聚抄』によっていることが先行研究によって明らかになっている。一方、『言海』は序文にて日本普通語の辞書であることが強調されており、それまでの辞書は漢和辞書であり、純粋な日本辞書ではないとして違いを示している。このように、それまでの辞書が中国の語の翻訳や語源解釈の目的で作られたのに対し、明治時代の辞書は国で使われる普通語の説明と意識の統一を目的に作られていたという違いが、辞書での意味変化が起きた原因だと考えられる。

5. 結論及び今後の展望

今回の研究で、名前の変化は古代に起きていたが、実際に女性名だと辞書によって定義されるようになったのは明治時代で、その原因は辞書の編纂目的の変化だったという結論に至った。女性名の変遷については先行研究によってかなり明らかになっているが、なぜ男性名から子型がなくなったかははっきりしていないため、当時の資料や先行研究をさらに詳しく読み込むなどして今後考察していきたい。

引用文献

HDIC Viewer (https://viewer.hdic.jp) (最終閲覧日：2025 年 11 月 12 日)

国書データベース (最終閲覧日：2025 年 11 月 12 日)

『言海〔校正刷〕』（慶應義塾大学附属研究所斯道文庫所蔵）(https://doi.org/10.20730/100338733)

『類聚名義抄』（大和文華館所蔵）(https://doi.org/10.20730/100113475)

『倭玉篇』（西尾市所蔵）(https://doi.org/10.20730/100067284)

『Rakuyō Shū/落葉集』（大英図書館所蔵）(https://doi.org/10.20730/100415167)

『字鏡集』（大和文華館所蔵）(https://doi.org/10.20730/100113478)

『日本釋名』（矢口米三所蔵）(https://doi.org/10.20730/100125251)

『東雅』（酒田市文化資料館光丘文庫所蔵）(https://doi.org/10.20730/100145385)

『倭名類聚抄』（愛知教育大学附属図書館所蔵）(https://doi.org/10.20730/100072412)

千駄ヶ谷日本語教育研究所「日本語の美しさ 第 303 回 「子」のつく名前 1」(https://www.jp-sji.org/jp/column/beauty-index/beauty07.html) (最終閲覧日：2025 年 11 月 12 日)

明治安田「生まれ年別名前ベスト 10」(https://www.meijiyasuda.co.jp/enjoy/ranking/year_men/) (最終閲覧日：2025 年 11 月 12 日)

大槻信（2021）『『新撰字鏡』の序文を読む—信州大学日本語学夏季セミナー講演記録—』『信州大学人文科学論集』8(2), 1-24.

杉本つとむ（1986）『『東雅』の成立とその方法』『国文学研究』89, 72-83.

橋本淳治・井藤伸比古（2011）『「子」のつく名前の誕生』仮説社

武情（2019）「倭名類聚抄と本草和名の共通出典について—新修本草以外の漢籍を中心に—」『国語国文研究』152, 100(1)-83(18).

原曲の音節と歌詞の意味を変えずに他言語に翻訳することはできるのか (Whether songs can be translated into foreign languages without changing the meaning of lyrics and the syllables of the original song.)

東京都立立川高等学校 2年C組 日根彩希

Abstract: This study examines whether song lyrics can be translated without altering meaning or syllable structure. Using linguistic analysis, a cross-linguistic survey, and an original translation, the research shows that considering rhythm, vowel patterns, and cultural nuance enables natural translations that preserve both message and syllable count.

Keywords: worldview, meaning, interpretation, natural

1. 研究背景

音楽鑑賞と韓国語の習得が趣味で、K-POP 日本語版の直訳調の歌詞やリズムの不一致に違和感を覚え、より自然な翻訳はできないのかと疑問を抱いた。K-POP ファン712名を対象とし、「K-POPの日本語 Ver.が K-POPの人気を支えているのか」を検証することを目的とした調査¹によると、約93.4%が日本語版と比べ韓国語版を主に聴くと回答しており、その理由として「日本語版に違和感がある」という意見が多数を占めていたように多くの人が不自然さを感じていることが分かる。さらに日英韓には語順や接辞、母音交替や格助詞の有無に違いがあること³が分かり、これらの差異が訳詞にも影響すると考えた。そこで不自然に感じる要因や自然と感じる歌詞を生み出すための条件、翻訳家が翻訳作業で注意している点を明らかにし、得た知見を活かして最終的に自分で実際に翻訳を行い、研究テーマ通りに翻訳できるかどうかを確かめたいと考えた。本研究における「自然」とは「人の持つ想像力を用いて容易に曲の情景や心情が分かること」と定義する。

2. 研究目的・意義

本研究の目的は他言語の歌詞を日本語に翻訳したときに違和感なく聞けるようにすることである。「違和感なく」というのは具体的に、原曲が伝えたいメッセージが訳詞後も明確に伝わっていると感ずること、音節が合っていることを指す。本研究では以下のリサーチクエスションを設定した。

- ① 日本語・英語・韓国語の間には、音節・母音・助詞・情報量の観点でどのような違いがあるのか。
- ② 母語の違いは、歌詞の好みに影響を与えるのか。
- ③ どのような要素が、翻訳された歌詞に対して「自然」「不自然」という印象を生むのか。

最終的に韓国語の楽曲を自ら翻訳し、原曲の音節や意味を変えずに他言語へ翻訳することが可能かを検証することで、ポピュラー音楽の歌詞翻訳論の発展に寄与できると考えられる。

3. 研究方法

- (1) 文献調査：言語そのものの違いが翻訳に与える影響・基本的な歌詞翻訳の方法を知るためにウェブページや言語学的観点から日本語や英語の特徴について述べられた書籍を読んで文献調査を行った。
- (2) 母語の違いが歌詞表現の好みに影響するかを検証するためのアンケート調査：日本語・韓国語・タイ語・英語を母語とする人々を対象に、直接的表現と比喩的表現のどちらを好むかを尋ねた。調査は2025年11月から12月にかけて実施し、都立立川高校の生徒62名、タイ人・韓国人の友人8名、英語話者53名の計123名から回答を得た。
- (3) 自然・不自然に感じる要因を考察し、翻訳上の違いがどのような印象の差を生むのかを検討するための歌詞分析：複数の言語で歌われている楽曲の歌詞を書き出し、原語の意味を日本語に書き直したうえで、直訳部分と意識部分の違いや、曲全体のメッセージの伝わり方を分析した。
- (4) 調査と分析で得られた知見が実際の翻訳に応用できるかを確かめるための翻訳：韓国語曲「Pretty U (SEVENTEEN)」を翻訳した。この曲は「君は綺麗だ」というフレーズが曲全体のキーワードであり、その日本語訳の仕方が目的達成の指標になると考えて、この曲を選んだ。

4. 結果・考察

(1) 文献調査

- ・英語が強拍リズム、日本語と韓国語がモーラ拍リズムという異なる音声リズムを持ち、同じメロディに収まる音節数が大きく変わる²。
- ・意味の適用範囲、婉曲表現、同義語・反意語の構造、語の省略や多義性、共感覚の階層、有契性の有無などの語彙・意味の体系が言語ごとに異なるため、直訳で意味のずれや不自然さが生まれる⁴。
- ・オノマトペの使われ方が言語間で大きく異なる⁵。
- ・両唇音が可愛さを喚起するなど音そのものが持つ印象の違いや、ラップに見られる調音点・母音の

一致が心地よさを生むという音声的特徴がある⁶。

・日本語では最小発音単位が2モーラであり、さらに4拍リズムが好まれる傾向がある⁷。

(2) アンケート調査

アンケート調査により図1のような結果を得た。

日本人・韓国人・タイ人は婉曲的表現を好む傾向があり、英語母語話者は直接的表現を好む傾向が見られた。サンプル数の偏りがあるためこの違いが母語や感受性に起因するとは断定できないが、翻訳においては、こうした表現スタイルや価値観の違いを認識することが重要であると考察した。

どちらの文章をより好みますか？
・失敗してもその努力が実を結び、あなたを笑顔にする（直訳的表現）
・涙の雨はいつか頬を伝い、喜びの虹になる（比喩的表現）

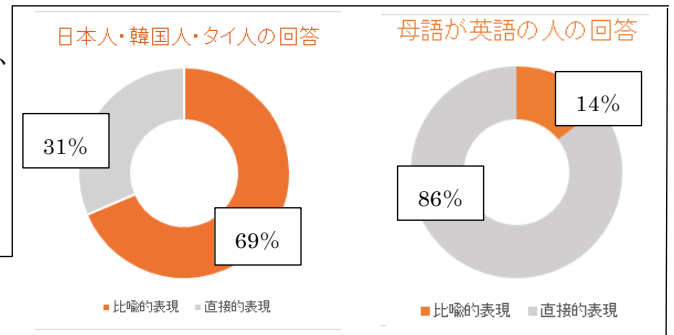


図1 母語の違いによる好む歌詞の傾向に関するアンケート項目とアンケート結果に関するグラフ

(3) 歌詞分析

・韓国語・日本語・英語の歌詞には表現の傾向に明確な差があり、日本語・韓国語は比喩的・情緒的、英語は直接的・ストーリー重視である。

・自然な翻訳（例：Chase me）は比喩の意味を汲んで別表現に置き換え、音節・リズムも整っているのに対し、不自然な翻訳（例：MIC DROP）は比喩の直訳や音節不足により意味が伝わりにくい。

・「Let it go」の日本語版は“変化”を強調し、英語・韓国語版は“解放”を強調するなど解釈の差があるものの、全体の世界観は保たれている。

(4) 翻訳（一番の歌詞を翻訳したがここではサビの部分抜粋した）

原曲の歌詞日本語訳：素敵な言葉を全部集めて渡してあげたいのに 君の前に立つと戻っていく言葉 夜明けに水を飲みながら一人で決心をしたんだ僕は君に のどまで出掛かっていたその言葉を明日必ず言うんだ「君は綺麗だ」って（下線部・波線部をそれぞれ下で検討する。）

翻訳した日本語歌詞：素敵な言葉かき集めあげたいけど ねえなんで君の前じゃ詰まるのさ 眠れない夜はやまってく鼓動抑え込んで のどまで出掛かっている言葉言わなくちゃ「綺麗だ」って

・「君の前に立つと戻っていく言葉」の部分は「君」を意味する「너」が4回繰り返されている。ここが「言いたいことがあるのに言えなくてもどかしい気持ち」を表していると考え、「なんで言えないんだろう」を表す「ねえなんで君の前じゃ詰まるのさ」という訳詞にした。またこの曲は少年の語り口調で進んでいくため語尾も口語のようにするにした。

・「夜明けに水を飲みながら一人で決心したんだ僕は君に」の部分は「眠れなくて朝早くに起きてしまった。緊張する心を落ち着かせるイメージ。」だと考え、「眠れない夜はやまってく鼓動抑え込んで」というフレーズにした。またこのフレーズは「眠れない」の「れ」と「抑え込んで」の「で」で原曲の韓国語と母音を同じにすることで聞いているときに耳に入りやすいようにした。

5. 結論及び今後の展望

多様な言語学的要素が歌詞翻訳の自然さに直接影響することが分かり、歌詞を他言語に翻訳する際には単なる語義対応ではなく、音の長さ・リズム・文化的背景・比喩の構造・語の選択によるニュアンスの差などを総合的に考慮する必要があると考察した。そして翻訳作業を行ったことで、原曲の音節と意味を大きく変えずに翻訳することは十分可能であるという研究の結論を出した。ただバラード調やラップ調などの曲調によって原曲の音節数に大きな差があったり、ディズニー曲のようにアニメーション映像に合わせて訳詞する必要があるなどの条件があったりと、翻訳のしやすさにばらつきがあるため一概に自然に翻訳することが可能であるとはまだ断定できない。しかし本研究で言語学・意味論・文化差・翻訳理論・音声学を横断的に扱ったため、今後 KPOP・バラード・ラップ・ディズニーなどジャンル別に翻訳の特徴を整理して、更なるポピュラー音楽の歌詞翻訳論の寄与に貢献したい。

引用・参考文献

- ¹ Damme (2023). 日本の K-POP ファン「韓国語 Ver. を主に聴く」9 割超え「日本語は違和感ある」 <https://danmee.jp/knews/k-pop/japanese-kpopfan/>
- ² Ken (2020). 言語の持つ音声リズム <https://note.com/kenny3/n/n335bd950248d>
- ³ 風間伸次郎・山田玲央（編著）. (2021). 『28 言語で読む「星の王子さま」：世界の言語を学ぶための言語学入門』. 東京外国語大学出版会.
- ⁴ 池上嘉彦 (2011). 『意味の世界 現代言語学から視る』. NHK Books.
- ⁵ 笈寿雄・田守育啓 (1993). 『オノマトピア 擬音・擬態語の楽園』. 勁草書房.
- ⁶ 川原繁人 (2022). 『音声学者、娘とことばの不思議に飛び込む』. 朝日出版社.
- ⁷ 太田正之 (2008). 日英語における愛称語形成について. 『県立新潟女子短期大学研究紀要』、45、167-168.

小倉百人一首かるたが江戸時代に庶民へ普及した要因についての分析

Why did the Ogura-Hyakunin-Isshu karuta become widespread among common people during the Edo period?

清風南海高等学校 2年E組 塩見由奈

Abstract: This paper examines the factors behind the popularization of the Ogura-Hyakunin-Isshu during the Edo period, analyzing the historical context, social atmosphere, and forms of entertainment of the time to elucidate how this classical anthology of waka poetry became widely appreciated among the common people.

Keywords: Ogura-Hyakunin-Isshu, karuta, Edo, culture, history

1. 研究背景

小倉百人一首は、藤原定家（1162-1241）によって編纂された和歌集である。日本文学史において特に重要な位置を占めている。飛鳥時代から鎌倉時代にかけての約600年にわたる歌集で、100人の著名な歌人による歌がそれぞれ一首ずつ収録されている。藤原定家が京都嵐山の小倉山荘で編纂したことから、「小倉百人一首」と呼ばれている。江戸時代以降、百人一首は様々な教育や娯楽の場で文学作品として用いられてきた。（kogei Kyoto）

先行研究としては、谷口直子『小倉百人一首競技かるたの普及過程』で江戸時代に百人一首が上流階級の女子の教養として普及した。そして、明治時代に競技かるたが学生の同好会から広まり、初の競技会が開催され、大正時代には全国大会が開催され、競技かるたが全国に広がったというように、競技かるたの普及過程は明らかにされているが、民衆への普及については言及されていない。

2. 研究目的・意義

本研究の動機は、学校の古典の授業で百人一首を学ぶ過程において、その題材となる「かるた」が数百年にわたる歴史を持ちながら、現代に至るまで受け継がれ続けているという事実に強い関心を抱いたことにある。百人一首かるたは、単なる娯楽としての遊びを超え、和歌や古典文学を身近に感じる文化的媒介としての役割を果たしてきた。本研究の目的は、かるたを楽しむという行為の背後にある歴史的・文化的背景を明らかにし、百人一首に対する理解を深めることによって、現代におけるかるた文化の価値と魅力を再発見することにある。

3. 研究方法

本研究では、江戸時代に百人一首かるたが庶民に広まった要因を明らかにするため、複数の資料を参照し、以下の二つの仮説を立てた。

1. 教育機関で百人一首が教えられていたことが普及に影響したのではないか。
2. 人々の生活が豊かになったことで、娯楽文化が発達したのではないか。

これら二つの仮説をもとに、出版点数の推移・技術発展・社会経済の変化に関する史料を比較しつつ分析を進めた。

本研究では、一つ目の仮説を検証するに当たり、往来物の出版点数と百人一首関連の往来物の出版点数についての表を参照し、教育現場における百人一首の扱われ方を分析した。右の表（往来物の出版点数と百人一首関連往来物の推移）を参照する。往来物とは、江戸時代の寺子屋で用いられた初級教材である。表を見ると、往来物の出版点数が増加するにつれ、百人一首を題材とした往来物の数も年々増加している傾向が読み取れる。

また二つ目の仮説を検証するに当たり、新田開発、農具の改良、購入肥料の使用、『農業全書』などの農書の普及、加えて問屋制家内工業の発展に関する史料を参考にし、庶民の生活水準の変化を把握した。速水融（2010）『日本経済史入門』を参照すると、農具の改良や新田開発、肥料の利用などによる生産性向上するなど農業技術が発展したことによって、米の増産が農民の収入向上につながり、生活の安定をもたらして、生産性向上が都市や商業活動に波及し、庶民文化や娯楽に費やす時間・経済的余裕の増加に影響を与えたことが読み取れる。さらに、江戸時代に発達した問屋制家内工業は、問屋が原材料や道具を貸し付け、農民が自宅で生産し、完成品を問屋が買い上げる仕組みであった。この制度により、農民は農業以外の現金収入を得ることができ、家計に余裕が生まれた。（佐藤常雄 1995、渡辺尚志 2010）

年代	女子用往来	百人一首	年代別合計
17世紀前半	慶長-慶安(1596-1651)	56年	14(0.3/年)
〃 後半	承応-元禄(1652-1703)	52年	76(1.5/年)
18世紀前半	宝永-寛延(1704-1750)	47年	140(3.0/年)
〃 後半	宝暦-寛政(1751-1800)	50年	274(5.5/年)
19世紀前半	享和-嘉永(1801-1853)	53年	443(8.4/年)
〃 後半	安政-明治(1854-1911)	58年	227(3.9/年)
合計	316年	1174(3.7/年)	836(2.6/年)
無刊年本を含む合計	316年	1861(5.9/年)	1199(3.8/年)

*年代別の刊行点数は、『女子用往来刊本総目録』『刊行別一覧』より年代が特定できるもの数を数えた。

4. 結果・考察

江戸時代には、寺子屋で使用される往来物の中で百人一首を扱うものが増加した。よって、百人一首が教育の場、特に女性の学習機会を通じて広く普及していったことが確認できる。したがって、寺子屋などの教育機関で百人一首が教材として扱われたことにより、和歌やかるたに触れる機会を持つ人々が増え、百人一首かるたが庶民の間に浸透していったと考える。また、江戸時代には庶民の生活に余裕ができ、娯楽にお金や時間を使うことができるようになったと考える。

江戸時代に百人一首かるたが広まった背景には複合的な要因が存在する。まず、寺子屋教育の普及が重要な役割を果たしたと考えられる。往来物に百人一首が多く採用されたことは、識字教育や古典理解が一般化しつつあったことを示し、特に女性にとって百人一首は教養を得る手段として親しまれていったと考えることができる。さらに、技術革新による印刷物の大量生産は、庶民文化の発展と娯楽の多様化を後押しした。生活に一定の余裕が生まれたことで、遊戯としてのかるたが楽しめる社会的環境が整い、安価に入手可能になった百人一首かるたは娯楽・教育の両面で受け入れられたと推測できる。したがって、教育的価値と娯楽性の両方を持つ百人一首かるたは、当時の社会状況と非常に相性が良かったといえる。

5. 結論及び今後の展望

江戸時代に百人一首かるたが普及したのは、寺子屋教育の広がりによる知識の一般化、特に女性の教育への浸透、そして印刷技術の進歩による低価格化と大衆文化の発展が複合的に作用した結果であると考えられる。

今後の展望として、江戸時代の教育史や娯楽文化の研究がさらに進めば、百人一首かるたが社会階層や地域によってどのように受容されていったか、また女性の教養形成にどの程度関係していたかなど、より詳細な社会的、文化的影響が明らかになるであろう。さらに、現代における百人一首競技や教育現場での活用を考える上でも、江戸期の普及過程の理解は重要な手がかりとなり得る。また、百人一首かるたのほかにも江戸時代にはいろはかるたや源氏物語かるたなど様々なかるたが作られている。そこで、百人一首かるたが他のかるたよりも現代で有名である理由や百人一首かるたの文化が現代まで続く理由を引き続き探究していきたい。

引用文献

- ・ https://kogeiaart.kyoto.jp/articles/post-3206/?utm_source=chatgpt.com (11月3日)
- ・ 谷口直子 (2004) 『小倉百人一首競技かるたの普及過程』
- ・ 速水融 (2010) 『日本経済史入門』日本評論社
- ・ 渡辺尚志 (2010) 『村の歴史学』山川出版社
- ・ 佐藤常雄 (1995) 『日本の産業革命前夜—近世の工業と技術』吉川弘文館

映像作品から見る鉄のカーテンの内側
—ロマン・カチャーノフと「哀感」のロシア史—
The inside of the iron curtain seen from the video works
—Roman Kachanov and the Russian history of "pathos"—
土浦日本大学中等教育学校 5年C組 遠藤咲

Abstract: I researched the cause of pathos in Soviet video works. In summary, I found that the main reason was that children experienced loneliness due to the war. I hope this research will encourage people to become more interested in other countries.

Keywords: Russian culture, video work, pathos, Soviet Union

1. 研究背景

2001年、日本でソ連の子供向け映像作品『チェブラーシカ』が公開されてから、チェブラーシカは彼の持つ愛らしさとどこか悲しげな瞳で多くの日本人の心を射抜いていった。内容は友情、社会風刺、国民性まで様々なものを映し出しており、それらは雪解け以降に制作された作品の多くに共通している。中でも極めて特徴的なのは「哀感」の表現である。本来ならば明るいはずの子供向け作品になぜこのような暗い感情が形成され多く用いられたのか、今このような情勢だからこそ本研究を通じて明らかにしたいと思う。

2. 研究目的・意義

本研究はソ連の雪解け以降に制作された子供向け映像作品に付き纏う「哀感」の原因を探ることを目的として行った。これにより人々の心情を理解し、近年の複雑な情勢に真摯に向き合うことができるという意義がある。また、本研究を知った人にロシアに限らず他国に関しての理解を深めることへの興味関心を持ってもらうという目的もある。

3. 研究方法

現在でもロシア内外で多くの人気を獲得しており心理描写が特に特徴的なロマン・カチャーノフ監督の作品『チェブラーシカ』¹『ミトン』『レター』『ママ』²を用い、その特徴と当時の情勢や歴史を照らし合わせ、哀感の原因を調査した。また、人々の心情を多角的に知るため、それが当時の映像作品特有のものだったのか否かを民謡や軍歌の歌詞の心理描写から調査した。

4. 結果・考察

まずは映像作品を鑑賞し哀感を感じさせる特徴を導き出したところ、以下の3つが浮かび上がった。

①家族が多くない

家族が全く存在していない、または母親しか登場しない、一人っ子であるという点が特徴である。調査した4作品のうち3作品は父親について語られず、唯一存在が仄めかされている『レター』でも一切登場しない。しかも、父親が海軍で働いているという設定なこともあり、終盤になるまで主人公らはその消息すらわかっていなかった。

②保護されるべき存在の哀感

これらの作品には本来保護されるべき子供が多く登場するが、その幼さに似合わないほど一番哀感を感じているのは彼らである。特に如実に現れる例として『チェブラーシカ』に登場するチェブラーシカとゲーナが幼い子供達を助けようとするシーンと『ミトン』に登場する主人公が序盤に犬を飼いたいと母親に申し出るシーンを挙げる。この2つには共通点があり、それは大人が子供達の要求をスルーするという点だ。当然スルーされた当事者達は己や周りの哀感を解消するために行動を起こすが上手くいかない。本来保護する側の大人が保護される側の子供の哀感を感じ取らないというすれ違いが発生している。

③大人と子供の距離が遠い

4 作品とも良くも悪くも心理、物理双方の大人との距離感を感じさせる。その例として、ひとつは『チェブラーシカ』の1シーンである人助けをするチェブラーシカと「人助けをしても有名になれない」とその邪魔をする意地悪なお婆さんのシャパクリャクとの悪い距離感、もうひとつは『ママ』の1シーンである息子を過度に心配するママとその気持ちも知らずに自由に過ごす息子との微笑ましい距離感のふたつの対比が挙げられる。

以上の3点と当時の情勢、歴史を照らし合わせると、以下の内容が判明した。

【①について】

①は第二次世界大戦を始めとした度重なる争いにより片親世帯や孤児が増加したことが原因だと考える。特にスターリンの大粛清により多数の将校が処刑、追放されたため軍が戦闘を行える状況でなかった他³、人海戦術を用いたことや市街戦もあったことなどから犠牲者が多数に及んだ。その結果父親や兄弟を亡くした家庭が増加したのである。

【②、③について】

②、③の原因として、①の原因に加え当時の住宅の形式が関わっていると考える。この作品が公開された当時、従来のコムナルカではなく家族単位で住むフルシチョフカを住処とする家庭も多かった。フルシチョフカはプライバシーこそ考慮されているものの、長谷川章氏は子供にとって孤独感を感じやすい環境であり、その感情を映像作品は癒していたと指摘している。⁴父親が戦争に、母親は仕事にと考えると、大人がいくら子供を気にかけていても生活スタイルや情勢の変化により解決しようのない距離感が発生したと解釈できる。

このように、①の原因を元に②、③の原因が発生していることから、根本的な原因は戦争による影響と考えられ、直接戦地にいなかったとしても子供に大きなストレスを与えたと言える。

上記のみだとソ連時代の戦争が原因で子供のみが不安を感じていたということになるが、ソ連より前の時代でも、立派な大人でも哀感を感じていたという点が民謡や軍歌の歌詞から感じ取ることができる。例えば、ロシア帝国時代に作られた『カリンカ』はただカリンカとマリнкаを歌っているだけではなく、ロシアの人生観や幸福、不幸の対比の暗喩だという説があったり⁵、『コサックの子守歌』では子を想うが故の母親の苦悩が繊細に描写されていたりと、価値観や不安といった複雑な感情の描写を多用する傾向は昔から存在していたことが読み取れる。そして、ソ連時代に作られた『ポーリュシカ・ポーレ』『カチューシャ』にも戦地に赴いた恋人を心配するといった描写がされ、他国では戦意を削ぐとされ規制されるような感情も表現されていた。異民族に間接的に支配されたタタールのくびき、庶民には人格権がないにも等しかった帝政の時代も含め、年齢や時代に関係なく苦難が多い故に哀感を感じやすく、その積み重ねが映像作品の人気に繋がったとも言える。

5. 結論及び今後の展望

以上を踏まえ、ソ連の子供向け映像作品の「哀感」は戦争により子供が孤独感を抱きやすかったのが要因で生まれたと考察する。しかし、この描写が的確に表現できたのは過去の「哀感」の歴史の積み重ねによるものである。子供が社会的弱者になりやすく、大人も同じく不安を感じていたこの時代は、現代にも関連し共感を生むのだ。この複雑な情勢を良い方向に向けるのなら、もう一度ロシア特有の表現を通じ価値観を見直すという歩み寄りが不可欠である。これは他国であっても共通する部分だろう。

今後の展望としては、他国の哀感の表現と比較し映像作品に込められた心情をより多角的に知ることを目指している。特に日本は「もののあはれ」や「無常観」といった独特の表現があるので、両国の理解がより一層深まるような研究をしていきたいと考えている。

参考文献・引用文献

¹ ロマン・カチャーノフ監督。DVD『チェブラーシカ』クロックワークス、2002年

² ロマン・カチャーノフ監督。DVD『ミトン』NBCユニバーサル・エンターテイメント、2004年

³ 小高正稔、齋木伸生、毒島刀也、伊藤龍太郎。独ソ戦のすべて。晋遊舎、2022年(p. 50)

⁴ 長谷川章。チェブラーシカはなぜ悲しげなのかーソ連崩壊以降のソビエト・アニメーション解釈を読み直すー。秋田大学、2018年 <https://air.repo.nii.ac.jp/record/3129/files/kbj73%2869%29.pdf> (参照:2025年12月20日 p. 70)

⁵ Т.Г.Бочина. КЛЮЧЕВЫЕ СЛОВА ФОЛЬКЛОРНОЙ КАРТИНЫ МИРА В ПОСЛОВИЦЕ-АНТИТЕЗЕ. КАЗАНСКИЙ ГОСУДАРСТВЕННЫЙ УНИВЕРСИТЕТ, 2003年

<https://web.archive.org/web/20100327221957/http://www.ksu.ru/fil/kn7/index.php?sod=9> (参照:2025年12月25日)

なぜ共和政ローマは地中海を制したのか

Why did Republican Rome dominate the Mediterranean?

東京都立立川高等学校 2年B組 上條安洲 2年G組 小関裕康

Abstract: We explored the factors behind Republican Rome's rise to dominance in the Mediterranean. We hypothesized that the Roman Republic's political institutions and maritime expansion were key drivers and examined these through literature review and analysis. We then assessed how these factors interacted and shaped the Republic's development and trajectory.

Keywords: Punic Wars, Mediterranean, republic, political stability, overseas expansion

1. 研究背景

共和政ローマは第二次ポエニ戦争(前 218)からマケドニア王権を倒す(前 168)までの短期間で地中海全域に勢力を拡大した。⁽¹⁾⁽⁴⁾なぜ共和政ローマにはこのようなことができたのだろうか。私たちは共和政ローマについて調査し、当時のローマが共和政を採用していた点、第一次ポエニ戦争を機に艦隊を作り海外へ進出した点に要因があると仮説を立て探究を行った。

2. 研究目的・意義

本研究の目的は政治体制や対外活動について文献調査をし、共和政ローマが地中海全域に支配を拡大した要因を見つけることである。参考文献や先行研究⁽⁵⁾では制海や共和政に関する記述が並列して書かれており、内政と対外活動という2つの事象の関係について明確に触れているものはなかった。したがって、本研究の意義は2つの要因がどのように関係し、共和政ローマの勢力拡大に影響したのか考察している点である。

3. 研究方法 (図1参照)

3-1. 文献調査

共和政ローマの政治体制について文献調査、考察をした。

3-2. 文献調査

共和政ローマの対外活動について文献調査、考察をした。

3-3. 内政と対外活動の関係

3-1,3-2より内政と対外活動の関係を考察した。

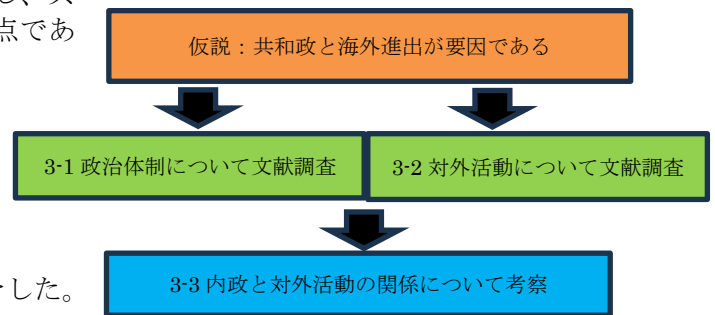


図1 研究の流れ

4. 結果・考察

4-1. 共和政ローマの内政について

共和政ローマの政治体制が優れていたと知り、「その政治体制が共和政ローマの勢力拡大の要因なのではないか」という仮説を立てた。また、ローマが地中海の大半を支配した後に政体が変わったので、この2つに関係があると考え、文献調査、考察を行った。

4-1-1. ポエニ戦争前

中小農民はローマ軍の重装歩兵の中核を担う存在だったため身分闘争が進展して図2のような政治が行われた。市民の権利は護民官によって守られていた。執政官は平時、遠征中ともに平民・元老院に対する命令権を持っていたが、任期は1年と短く、権力の集中を防いでいた⁽¹⁾。

前367年にリキニウス・セクスティウス法が成立し、2名のコンスル(執政官)のうち1名を平民から選べるようになり、法的な平等が一応実現された。これにより政治的安定が成立し、共和政ローマは前4世紀後半から急速に勢力を拡大した⁽²⁾。アリストテレスは『政治学』で民主制と寡頭制を混合させた中庸を目指すべきだと述べている。『教養としてのギリシャ・ローマ』ではこの結論を、「安定した国政を得るには、国民各層の不満に耳を傾け、善政を行うことが重要である」とまとめた⁽³⁾。元老院が実質的に国政を担っていたものの、元老院、執政官、平民会の三者が互いに力を抑えあい、その結果どのような状況にも対処出来る国制を作り上げていた。民会の決定が国の決定となった一方で、裁判権は元老院が握っていた⁽⁶⁾。

4-1-2. ポエニ戦争後

ポエニ戦争後(前146年)以降は大量の奴隷や安価な穀物が属州から流入したことで、中小農民が没落した。戦利品や賠償金は少数の富裕層へ集中し、貧富の差が拡大した⁽⁴⁾。

共和政ローマは身分闘争によって早い段階から元老院と平民会と政務官による政治が行われることで権力の偏りが大きくなり、政治的中庸が保たれていた(4-1-1による)。これが国力を高め、結果として戦勝につながったと考えられる。また、国が成長するためには政治的中庸を目指し、対立を防ぐこ

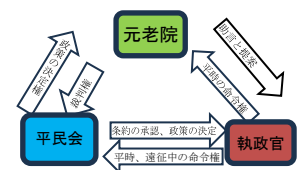


図2. 共和政ローマの政治体制 文献(1)および(6)より作成

とが重要だと考えられる。ここでの政治的中庸とは権力や政策が偏っていない政治の状態を指す。

4-1-3. 政治的中庸の変化

4-1-1並びに4-1-2より、ローマの中庸が崩れたことには主に2つの要因が考えられる。

要因1：支配領域が拡大したことによる平民主体の政治体制の限界。平民が没落し、力が弱まった。

要因2：貧富の格差拡大などによって、軍人が台頭する内乱状態となった。

没落した平民に代わって職業軍人が生まれ、彼らは有力者の下に集まった。その後は有力者が権力争いをするようになり、内乱の1世紀に突入した⁽¹⁾⁽²⁾⁽⁶⁾。

4-2. 対外活動に関する文献調査と考察

もともと内陸で活動していた共和政ローマが海に進出し、強大な艦隊を有するまでになったことが、大きな転換点でありテーマに対する要因であると考え、文献調査、考察を行った。

4-2-1. 艦隊の建設

共和政ローマは第一次ポエニ戦争の際、カルタゴが海上の覇権を握っていたためシチリアへの食料供給などの問題に直面した。そのため、共和政ローマは船の建設に着手し、艦隊を作った⁽⁴⁾。このことはイタリアの外に進出し戦争を行うことを可能にし、勢力拡大のきっかけであると考えられる。

4-2-2. 講和条約

第一次ポエニ戦争では共和政ローマはカルタゴに賠償金とシチリアからの撤退を、第二次ポエニ戦争ではカルタゴに賠償金と艦隊、象の引き渡し（カルタゴは戦で象を用いていた）を要求し、カルタゴはこれらを受け入れた⁽⁴⁾⁽⁷⁾。この2つの講和条約によりシチリア周辺の航路の確保とカルタゴの軍事力を低下させ西地中海の脅威がなくなったことが東地中海に進出する足掛かりとなったと言える。

4-2-3. 港（図3参照）

共和政ローマは第一次、第二次ポエニ戦争を通して新たにリュバエウム、カルタゴ・ノヴァを獲得した。これらの都市は艦隊を受け入れられる重要な港であった⁽⁴⁾⁽⁷⁾。西地中海の重要な港を手に入れられたことで、海上の脅威であったカルタゴの海上活動を制限することができたと考えられる。



図3 文献(4)より作成

4-3. 考察（図4参照）

4-1、4-2から内政と対外活動の関係を考察する。元老院は当初、外交の見地から第一次ポエニ戦争に消極的であったが、イタリア内の戦争で疲弊した農民が戦争による利益を求めたことが後押しとなり開戦を決定した⁽⁴⁾。このような背景から平民の発言力が強かったことが結果的に共和政ローマの対外活動の転換につながったと考えられる。さらに、海外進出により戦争の長期化や遠方での戦争が平民の没落を招き、内政の均衡が揺らいで内乱の1世紀に突入するきっかけとなった（4-1-3より）。以上のことから共和政ローマの対外活動、内政の変化は2つの要因が相互に影響していたことが原因であると考えられる。

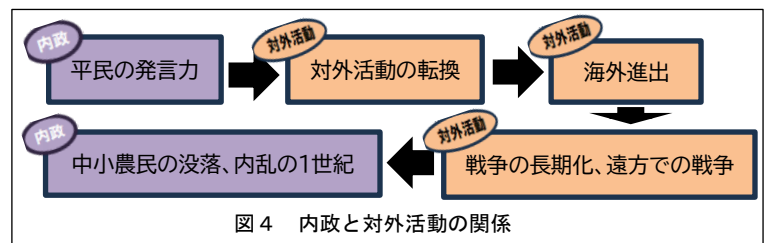


図4 内政と対外活動の関係

5. 結論及び今後の展望

共和政ローマは早い段階から平民と為政者との権力のバランスの取れた政治を行い、内政が安定したこと、また、艦隊を作り海外へ進出し海上で優位に立ったことが、共和政ローマが覇権を拡大させた要因であった。さらにこの2つの要因には関係があり、それらは別々の事象ではなく、互いに影響を及ぼしていたことが共和政ローマの性格を変えていった。今後は、ローマの政体がどのように変化していくのかをより深く知るために内乱の1世紀に行われた政策について探究を進めたい。また、現段階では第二次ポエニ戦争までの勢力拡大に焦点を当てており、その後の勢力拡大と維持の要因の検証を行うべく、第三次ポエニ戦争以後の対外活動と共和政ローマの分割統治、属州統治について探究を進めたい。

引用文献

- 坂本浩.『図解雑学「ローマ帝国」』.株式会社ナツメ社 (2006)
 - 島田誠.『世界史リブレット「古代ローマの市民社会」』.山川出版社. (1999)
 - 中村聡一.『教養としてのギリシャ・ローマ』.東洋経済新報社 (2021)
 - ポリュビオス著 城江和良訳 『歴史 1』 京都大学学術出版会 (2004)
 - アルフレッド・T・マハン著 北村謙一訳 戸高一成解説『マハン海上権力史論』原書房 (2008)
 - ポリュビオス著 城江和良訳 『歴史 2』 京都大学学術出版会 (2004)
 - ポリュビオス著 城江和良訳 『歴史 3』 京都大学学術出版会 (2004)
- 地中海: d-maps.com: 無料地図、無料の空の地図、無料のアウトラインマップ、無料のベースマップ (2026/1/7)

植民地時代におけるソウルの都市形成の思想背景

The ideological background of Seoul's urban formation during the colonial era

土浦日本大学中等教育学校 5年B組 植本花奏, 飯野美月, 馬場美里杏

Abstract: This paper focuses on the formation of Seoul as a city under Japanese colonial rule, revealing the underlying governance philosophy behind it. It also examines changes in the urban landscape.

Keywords: Seoul, ideological background, urban planning, urban landscape.

1. 研究背景

日本は韓国の植民地支配を正当化するために近代化を掲げた。その中で道路整備や建物の建築などの都市計画が進められた。これらの都市計画は、単なる都市の利便性向上を目的としたものではなく、日本の統治体制や当時の近代都市思想を反映して行われた。植民地時代におけるソウルの都市形成の思想背景に注目することは、現在のソウルの都市形成の変遷やこれまでの日韓関係を考察する上で重要なことである。

2. 研究目的

現在の韓国（ソウル）の街並みに、植民地時代の都市計画がどのように反映されているのかを明らかにすることを目的とする。そのため、日本の植民地経営の方針や思想、都市計画、具体的な建築物を題材に焦点化し、それが現代の都市構造や景観にどのような影響を与えているのかを考察する。植民地時代に建設された建築物のうち、解放後に撤去されたものと、改修・再利用されながら現在まで残されているものを比較する。その上で、それぞれの建築がどのように位置づけられ、どのような用途や意味を与えられてきたのかを整理し、建築の取捨選択に関わる社会的な意義や意思決定の背景を考察する。

3. 研究方法

本研究では、韓国の植民地時代における都市計画を扱った先行研究をもとに、当時の都市形成の思想背景を整理する。日本側の政策意図と韓国側の歴史認識を先行研究から整理した上で、植民地時代に整備された都市構造や道路網が現在のソウルの街並みや景観にどのように引き継がれているのか考察を行う。

4. 結果・考察

1910年から1945年にかけて、朝鮮は日本の植民地支配下に置かれ、首都は京城とされた。以降、京城は植民地統治の中心都市として再編され、都市計画や建築を通じた新たな秩序が形成されていった。

植民地期のソウルの都市形成を考える上で象徴的なものが2点ある。1つ目は、朝鮮総督府を景福宮の正面に建設した点である。景福宮は、朝鮮王朝の王権と国家を象徴する空間であったが、その正面に総督府を配置することで、従来の権威を物理的・視覚的に覆い隠す構造が生み出された。この配置は、単に行政機能を集中させるためのものではなく、日本の統治権力を都市景観の中に示し、支配の正当性を可視化する意図を持っていたと考えられる。（阿部和俊, 2007）2点目は、日本統治期に形成されたコロニアルタウンである。日本式建築と西洋式建築が組み合わされた街並みが整備された。旧京城中心部（現在の鍾路や南山周辺）ではソウルの市庁舎（旧京城府庁舎）・新世界百貨店（旧三越京城店）・ソウル駅（旧京城駅）舎などがある。（須山聡, 2006）とくに西洋的な建築様式は、近代国家としての威信を示す役割を担い、朝鮮に対する日本の優越性を視覚的に表現する手段であったと考えられる。とくに西洋的な建築様式は、当時の世界において「近代国家」を象徴する共通の表現であり、近代化＝西洋化という価値観と強く結びついていた。日本は自らを西洋に並ぶ近代国家として位置づけることで植民地統治を正当化しており、その姿勢は朝鮮におけ

る都市計画や建築にも反映された。西洋的な官庁や商業建築を都市の中心部に配置することで、日本は自らを「近代を担う側」、朝鮮を「近代化される側」として視覚的に示そうとしたと考えられる。

このように、西洋的建築様式は行政機能を果たすだけでなく、日本の優越性を視覚化するために都市景観で表現した。日本統治期の建築は、その後、破壊されるもの、利用・保存されるものに分かれた。例えば、神社など日本の宗教的価値観を強く帯びた建築は、多くが撤去された。市庁舎や駅などの公共建築とは異なり、神社は韓国人の日常生活において実用的な役割を持たず、残す必要性が低かった。さらに、神社は植民地支配という「思い出したくない過去」を想起させる存在でもあり、解放後の国家再建の過程において撤去が選択されたと考えられる。一方で、石造やコンクリート造の公共建築は、実用性の高さから市庁舎や駅、百貨店などとして引き続き利用されてきた。また、日本式住宅の一部は、オンドルの設置など韓国の生活様式に合わせて改変され、周囲の景観に同化していった。これらは、日本文化の再評価というよりも、機能性や歴史的価値といった観点から再解釈された結果であると考えられる。これまでの植民地期研究では、支配する側と抵抗する側という二項対立で当時を説明することが多かった。しかし最近の研究では、そうした単純な善悪の見方だけでなく、植民地支配の中で支配の側面と近代化の側面が同時に存在していたことに注目する考え方が示されている。本研究もその立場を踏まえ、植民地支配の複雑な側面を捉えようとした。

5. 結論・今後の展望

本研究を通して、植民地期ソウルの都市形成は、単なる近代化の過程ではなく、日本による植民地支配を支えるための統治戦略であったことが明らかになった。都市計画や建築の配置は、行政や経済の効率化だけでなく、支配の秩序や価値観を視覚的に示す役割を果たしていた。一方で、植民地期の都市形成は、道路や上下水道の整備など、近代都市としての機能を発展させた側面も持っていた。日本の、植民地支配に対する評価には、略奪や搾取であったとする見方と、近代化に貢献したとする見方の二つが存在する。しかし、韓国側では、植民地支配は自らの意思によるものではなく、強制されたものであったという認識が一貫している。このように植民地期の都市形成をめぐる日韓で評価が分かれている点に問題意識を持ち、都市計画や建築という具体的な事例からその背景を整理する。

今後はソウル以外の植民地都市との比較を行うことで、植民地期の都市形成が現在の都市構造や景観にどのような影響を及ぼしているのかを明らかにしたい。特に、かつて植民地支配の象徴であった建築や空間が、現在の都市においてどのような意味づけを与えられているか注目し、過去の支配の跡が現在の都市生活の中でどのように受け止められ、将来の都市形成へどのように変容を遂げていくのかを考察していきたい。

引用文献

阿部和俊（2007）『都市の景観地理』古今書院

須山聡（2006）『韓国におけるコロニアルタウンの景観 一同化と異化、保存・利用・破壊―』神奈川大学 21世紀COEプログラム研究推進会議

邢基柱 『朝鮮時代と日本植民時代のソウル』2002) 国際日本文化研究センター

参考文献

徐禎完, 増尾伸一郎編（2011）『植民地朝鮮と帝国日本―民族・都市・文化』勉誠出版

周藤利一（2014）『韓国の都市計画制度の歴史的展開に関する研究』大成出版社

森万佑子（2022）『韓国併合 大韓帝国の成立から崩壊まで』中央公論新社

廉馥圭, 橋本妹里訳（2020）『ソウルの起源 京城の誕生 1910～1945 植民地統治下の都市計画』

(*Hâ* in the Ibaraki Dialect Functioning as a Sentence-final Particle and Grammaticalization)

常総学院高等学校 2年10組 吉野胡桃、高橋信、磯凌輔、田中雄也

Abstract

This research shows the linguistic analysis of *hâ* used in the Ibaraki dialect. Based on the data we collected, we argue that *hâ* at the end of a sentence functions as a sentence-final particle. Moreover, we argue that the usage comes from the adverbial usage of *hâ* from the viewpoint of the theory of grammaticalization.

Keywords: Linguistics, Grammaticalization, Ibaraki Dialect, Sentence-final Particle

1. 研究背景


茨城方言には特徴的な表現がいくつも存在するが、その中の一つに「はー」という表現がある。(1)の下線部が該当する表現である(「 」は文の標準語訳で下線部は「はー」の訳である)。

- (1) a. 副詞用法：はーいいあんべえにしろよ。「もういい加減にしろよ。」
b. 感動詞用法：はーだいだ。「もう駄目だ。」

この表現に関して辞書の記述(赤城 1991: p.722)には(1)にあるような二つの用法が掲載されているが、これらの用法のどちらかに区分することのできない例が見つかった。

- (2) a. はーもういいあんべえにしろよ。
b. *もうもういい加減にしろよ。
(3) a. もういいあんべえにしろよはー!
b. *もういい加減にしろよ、あー!

(‘*’はその文が意図された意味で解釈できないことを示す)

- (4) もう行ったどはー。(矢印は上がり調子の発音、太字は強調した発音を示す)

一般に同じ意味を持つ表現は、標準語文(2b)の下線部に示されるように、同時に出現できない。しかし、(2a)では「はー」と副詞の「もう」が一緒に使用することができている。一見すると感動詞のように見えるこの「はー」は、一方で、(3a)にあるように文末で用いることができる。また、(4)に示されるように全体的に上り調子で発音され「はー」の部分が強調される。このふるまいは感動詞らしくない。標準語文(3b)に見られるように、一般的な感動詞を文末で使用することは許されない。つまり、(3a)の「はー」は副詞でも感動詞でもない全く新しい用法だと言えるのである。

2. 研究目的・意義

本研究の目的は(3a)に出現している「はー」の性質を一部明らかにすることにある。特に、(3a)の「はー」は聞き手の行動に対して話し手が苛立っていることを示す終助詞として機能していると主張する。終助詞として機能していることを言語データに基づき論証したうえで、終助詞機能がどのように獲得されたのかについて文法化の観点(cf. 秋元 2011)から考察する。「はー」の出現位置の変化が文法化の一現象であると分析することで本研究が文法化の理論研究の一助となると考えられる。

3. 研究方法

言語学の考え方及び手法 (cf. 佐久間・加藤・町田 2004) に基づきデータを観察・分析した。データに関しては茨城方言話者による作例に加え図書館に所蔵されている茨城方言に関する文献内から収集したものも存在する。使用されているデータに関しては複数の茨城方言話者から文法チェックを受けているものである。

4. 結果・考察

一般に終助詞とそれを除いた部分との間に音声的な休止を置くことは許されない。同様に、文末の「はー」と残余部分の間に音声的な休止を置くことはできない。(5) のペアを参照されたい。

(5) a. *いいあんべえにしろよ、はー！

b. *いい加減にしろ、よ！ (以下 ‘...、...’ は音声的な休止を示す)

また、(6) のペアでは、終助詞と残余部分の間に別の表現を挟むことができないのと同様に、文末で使用される「はー」と残余部分の間に別の表現を差し挟んで両者を分離させることはできないことが示されている。

(6) a. ?いいあんべえにしろよ、{もう / おめー}、はー！

(‘??’ はその文が意図された意味での解釈がしにくいことを示す)

b. *いい加減にしろ、{もう / おまえ}、よ！

(5) と (6) より、文末の「はー」は終助詞と同様のふるまいを示すことがわかった。したがって、本研究では、文末に出現している「はー」は終助詞に近いステータスを獲得していると分析する。

次に「はー」がどのような過程を経て文末に出現できるようになったかについて考えてみたい。副詞「はー」は標準語の「もう」と大部分意味を共有していると思われるが、人の感情が高ぶった際に出現するという点でも共通している (標準語「もう」の感情機能に関しては Akiba Reynolds 2016 参照)。この共通点から、本研究では、副詞「はー」の用法から終助詞「はー」へと語用論的強化 (Traugott 1988) を経て拡張したものであると分析する。現代日本語において文中で話し手の気持ちが表現される領域は文頭と文末であり、特に文末では表現される事態に対しての話し手の気持ちが強く示される。(1) でも見られるように副詞「はー」は文頭で使用されることの多い表現だが、この位置で使用されることが多くなった結果として「はー」が話し手の気持ち、特に苛立ち、を表す特別な表現となり、より話し手の気持ちを表しやすい位置、つまり文末、に出現するようになったと考えられる。

5. 結論及び今後の展望

本研究は茨城方言の「はー」が持つ機能に着目しその出現位置について言語学的手法に基づき観察・分析を行った。その結果として、話し手が聞き手の行動に対して苛立ちを覚えていることを表す「はー」は終助詞として機能していることが明らかとなった。また、文法化の観点から副詞用法から終助詞用法へ発展したことを論じた。今後はこの文法化の過程の妥当性を歴史的な観点から検証していきたい。

引用文献

赤城毅彦 (1991) 『茨城方言民俗語辞典』, 東京堂出版, 東京.

秋元実治 (2011) 『増補文法化とイディオム化』, ひつじ書房, 東京.

佐久間淳一・加藤重広・町田健 (2004) 『言語学入門—これから始める人のための入門書—』, 研究社, 東京.

Akiba Reynolds, Katsue (2016) 「日本語における感情表出—「もう」の意味機能」, 『ことば』第 37 号, 72-94, 現代日本語研究会.

Traugott, Elizabeth (1988) “Pragmatic Strengthening and Grammaticalization,” Proceedings of the Fourteenth Annual Meeting of the Berkeley Linguistics Society, 406-416.

映像作品における信念変容のメカニズムの考察

An Examination of the Mechanisms of Belief Transformation in Visual Media

鹿児島修学館高等学校 2年2組 上山 宝晟

Abstract: This study examines the mechanisms by which specific elements of visual media overcome selective exposure and induce long-term belief change. Using Heartstopper and Descendants, it analyzes the psychological mechanisms of belief change. From this analysis, it explores elements that induce cognitive dissonance and transformative learning, applying them to reconstruct social cognition.

Keywords: belief, Selective Contact, Cognitive Dissonance, Transformative Learning

1. 研究背景

「多様性」が謳われる一方、若年層の日常ではマイノリティ(LGBTQや障がい者など)への揶揄が存在し、知識提供のみで個人の「信念*」を変えることは困難である。既存の信念に合う情報を好む「選択的接触」やメディア像が現実認識を固める「培養効果」がステレオタイプを強化する一方、物語への没入や認知的不協和*などが信念変容を促す可能性も示唆されている。ドラマ『3年A組』放送後のいじめ認知件数の減少や、ドラマ『silent』によるSNS上での手話への関心向上など、映像作品*が社会に影響を与えたと考えられる事例も存在する。私自身も映画『ディセンダント3』を通じ「先入観を持たない」という信念が長期的に形成された経験を持つ。こうした現象は「認知的不協和」や「変容的学習*」にあると考えられるが、選択的接触を打破し、長期的な変容を導く具体的な条件は未だ解明されていない。

*信念：個人が生きるうえで大切にしている価値観や無意識に当たり前だと感じてしまうステレオタイプと定義する。

*映像作品：社会的メッセージを含む物語構造をもつドラマや映画と定義する。

*認知的不協和：自分の信念と矛盾する行動をした際の不快感解消のために信念を変えること。

*変容的学習：従来の自分の信念では説明できない体験をした際に信念が変わること。

2. 研究目的・意義

本研究の目的は、映像作品が視聴者の信念を変容させるプロセスを明らかにし、信念変容のための映像作品の条件を考察することである。自分自身の実体験にも基づき、どのような作品要素が選択的接触を打破し、信念の長期的な変容を導くのか、その具体的な条件を考察することに意義がある。

3. 研究方法

本研究では、自身の信念変容に大きな影響を与えた作品①『ディセンダントシリーズ』と、Netflixで世界的な高視聴率を記録し社会的評価の高い作品②『ハートストッパー』の2作品を対象としたケーススタディを行った。

(1) 個別シーンの分析：両作品から自身の信念に影響を与えた具体的な場面を抽出し、心理学的に分析した。

(2) 信念変容の条件抽出：分析から得られた共通点と先行研究や文献で得られた情報を照らし合わせ、信念変容を導くための作品条件として体系化する。

4. 結果・考察

<2作品のあらすじ>

作品①『ディセンダントシリーズ』：かつて隔離された「ロスト島」で育ったヴィランズ(悪役)の主人公マルとその友人ら4人が、善の王国「オラドン王国」へと招かれる。物語は、マルたちが葛藤や困難を乗り越え、島と王国をつなぐ存在となっていく姿を描いている。

作品②『ハートストッパー』：イギリスの男子校を舞台に、ゲイを公表しているチャーリーと、ラグビー部のスター選手ニックとの恋や友情、セクシュアリティの葛藤などを描いた青春ドラマ。

(1) 個別シーンの分析

作品①『ディセンダントシリーズ』の分析

・属性と善悪の分離：ロスト島出身のマルが善の心に従い母と戦う姿が、ロスト島(ヴィランズ)出身者は悪であるというステレオタイプを覆した。また、マルの「出身で善悪が決まるわけではない」というセリフは、「属性で人を判断する」という自身の信念に直接的にアプローチした。

・無意識の偏見の自覚：ベン(オラドン王国の王子)がマルのありのままを受け入れる姿や、イヴィが知性を隠すジェンダーバイアスの描写を通じ、自身の生活においても「あの人は〜だから」と無意識に決めつけていた先入観を自覚するに至った。

・ディズニー作品とミュージカル映画という娯楽でありながら、視聴者に自身の信念や行動の再考を

促す側面をもつユーダイモニック*な要素を含んでいる。

*ユーダイモニック：人生の意味・道徳・真理などを再考させ、長期的に影響を与えるもの。

作品②『ハートストッパー』

・認知的不協和の発生と変容的学習の成立：トランスジェンダーであるエルの描写（男性的な骨格と女性の吹き替え、男子校から女子校への転校）に直面した際、当初は違和感を覚え（認知的不協和）、理解に時間を要した。しかし、作品のリアリティや感情的描写に没入することで自身の既存の性別観で事実を捻じ曲げる（自己正当化）のではなく、自身の性別観を批判的に振り返り、外見で判断しないという変容的学習が成立した。

・感情的同一化の発生：セクシュアリティに悩むニックが「バイ」と診断された際の葛藤や自覚の困難による涙に共感し、当事者の自覚することの困難を自分事として捉えることができた。

・LGBTQ 当事者の俳優が演じていることや、作者が当事者であることで、当事者の葛藤やコミュニティ内でのポジティブな側面を美化せず、リアルに描写している。

(2) 信念変容の条件抽出

段階	視聴者の状態	作品内でのアプローチ	心理的メカニズム
①選択	作品に無関心 (視聴者の考えと異なるような作品を避ける)	青春やファンタジー、コメディ、話題性など「娯楽」としての要素を全面的に出し、社会的メッセージをカモフラージュする。	様々な要素を含む作品として選択的接触を回避させ、作品に関心を持ってもらう。
②接触	視聴者の信念に違和感。	一般的に当たり前だと考えられている常識を覆す行動や信念の描写。 (外見と性別の不一致や善のヴィランズなど)	視聴者の信念と反する行動をとるキャラクターによって矛盾が生じる。
③葛藤	違和感解消のために言い訳を探す。 (「ドラマだから」、「自分には関係ないから」など)	当事者制作やリアルな感情を描写し、リアリティを高める。	自己正当化を防ぐ。
④没入	他人事ではないとキャラクターに同情。	普遍的な感情に焦点を当てた描写。 (キャラクターと自身を区別化させない)	感情的同一化の発生。
⑤更新	信念の変化・形成	視聴者の信念の再考を促すようなキャラクターのセリフや問いかけ。	認知的不協和と変容的学習によって信念が変化・形成される。

これらの条件は、視聴前の視聴者の選択的接触を打破し、信念の変容を導くものとなると考察する。また、ユーダイモニックな構造であると定義できると考えられる。

5. 結論及び今後の展望

分析の結果、娯楽性を入口に選択的接触を打破し、よりリアルな描写で自己正当化を防ぎ、認知的不協和や変容的学習へと昇華させる過程があると考察できた。このようなユーダイモニックな構造を持つ作品は、培養された偏見や信念を解体するツールとなり得ると考えられる。今後は本研究で導き出した条件の有効性を客観的に検証するため、他作品を対象とした実証調査を行いたい。具体的には、設定した測定尺度を用い、協力者に映像作品を視聴してもらうことで、選択的接触の打破や信念の変容が実際に生じるかを測定する。こうした調査を通じて、条件の他作品への応用可能性を評価するとともに、変容が長期的に持続するプロセスについても明らかにしていきたい。

参考文献

- アーサー・A・レイニー他, 李光鐘(監訳), 李光鐘(2023). 「ポジティブメディア心理学とはどういう学問か」, 「ポジティブ心理学の主要な理論と概念」, 「ヘドニックなエンターテインメント」, 「有意義なエンターテインメント」. 『ポジティブメディア心理学入門 メディアで「幸せ」になるための科学的アプローチ』. 新曜社.
- アーサー・A・レイニー他, 李光鐘(監訳), 大坪寛子(2023). 「ナラティブ説得」. 『ポジティブメディア心理学入門 メディアで「幸せ」になるための科学的アプローチ』. 新曜社.
- 渋谷明子(2021). 「エスノシニティ」. 李光鐘, 渋谷明子. 『メディア・オーディエンスの社会心理学 改訂版』. 新曜社.
- 李津娘(2021). 「ジェンダーとセクシュアリティ」. 李光鐘, 渋谷明子. 『メディア・オーディエンスの社会心理学 改訂版』. 新曜社.
- 田中東子(2023). 「メディアと表象の権力」. 林香里, 田中東子. 『ジェンダーで学ぶメディア論』. 世界思想社.
- 立田慶裕(2012). 「おとなの学びと変容—変容的学習とは何か」. 『日本学習社会学会年報』, (8), 75-76.
- 小山内秀和・楠見孝(2013). 「物語世界への没入体験—読解過程における位置づけとその機能—」『心理評論刊行会』, 56(4), 457-473.
- 日本経済新聞(2024)「ネット上の誹謗中傷とは 相談件数8年連続で5000件超」.
<https://www.nikkei.com/article/DGXZQOUA0823P0Y4A100C2000000/> 2025年10月13日.
- 一般社団法人全国PTA連絡協議会(2024)「いじめ認知件数は過去最多を更新 2024年」.
<https://zen-p.net/ts/s631.html#gsc.tab=0> 2025年10月4日.
- FNNプライムオンライン(2022)「ドラマ『silent』が人気で若者が手話に関心 「手話を通じる人が増えていい」聴覚障がい者も歓迎【静岡発】」.
<https://www.fnn.jp/articles/-/456348> 2025年10月13日.
- Screens(2023)「【Inter BEE CURATION】データで見る『silent』視聴のダイナミズム～生活者とのコミュニケーション戦略【vol.2】」.
<https://www.inter-bee.com/2023/ja/magazine/special/detail/?id=53407> 2025年10月13日.

ロシア文学と民衆思想の関係

一十七世紀末からソ連誕生にかけて、ロシア文学の変遷と民衆の思想との関係―

The Relationship Between Russian Literature and Popular Thought: The Evolution of Russian Literature and Its Connection to Popular Ideologies from the Late Seventeenth Century to the Birth of the Soviet Union

東京都立立川高等学校 2年C組 米澤史華

Abstract: This report explores how Russian literature and popular thought interacted in the 18th and 19th centuries. Intellectuals influenced by literature helped lead revolutions, while later violent movements caused writers' despair. Overall, literature and popular ideology shaped one another through repeated periods of social upheaval.

Keywords: Russian literature / popular thought / popular ideology / evolutions

1. 研究背景

ロシア帝国時代の17世紀から19世紀の間、ロシア文学は政府の検閲制度の中で発展を遂げ、文学においては当時の欧州で最先端であると評価された。その中で現代でも有名なニコライ・ゴーゴリ、フォードル.M.ドストエフスキーなどが誕生した。それと同時期に、改革・革命の動きが顕著になった。

2. 研究目的・意義

ロシア文学の変遷と、民衆（農奴・市民階層）の改革・革命思想との関連を分析し、階層ごとに文学との関係を区別して考察する。それによって文学が社会変動の中で果たした役割を整理し、特に革命前後の文学作品を通して文学と社会の関係性を理解することを目的とする。

3. 研究方法

以下のことについて文献調査を行った。

- ①ロシア文学の普及について
- ②ロシア文学の変遷について
- ③ロシア帝国における大きな改革・革命の歴史について
- ④社会活動家の行動や思想について
- ⑤ロシア作家の思想について
- ⑥ロシア帝国の印刷業について
- ⑦ロシア文学から読み取る社会批判や文学者の思想について

4. 結果・考察

①巽由樹子によると、図書館制度が政府や自治体、貴族による県立もしくは市立図書館から、社会活動家や啓蒙団体による人民図書館という流れを経て発展し、読者層が拡大した¹。その間、皇帝による検閲の強化が行われたにもかかわらず、ロシア文学作品が学生、女性を中心に最も読まれた²。その結果、ロシア文学の存在や価値が広く普及し、「全国民的財産」へと変化したことが分かった^{1,2}。

②木村彰一・北垣信行・池田健太郎によると、17～18世紀の間、教会権威の衰退により文学における宗教色が薄まり、世俗文学が発展した。19世紀には、文学における思想性の高まり、リアリズムの確立が相まって、文学を通じた農奴制批判などが台頭した。これによって、文学が社会改革の議論の中心となった。また、青年将校を中心とした反乱に詩人などが大きく関わり、ロシア帝政に対する批判を顕わにしたことが分かった³。

③三城俊一・高宮サキ・野中直美著によると、プガチョフの乱などの異民族、農奴による反乱が行われたが、18世紀後半以降、農奴制が厳格化し、農奴による大きな反乱は起きなかった。次に、デカブリストの乱やナロードニキなどの知識人などによる反乱が起こった。ナロードニキは農奴への啓蒙活動だったが、その多くが失敗に終わり、その後、皇帝の暗殺を始めとした武力に頼った反乱が増加した。皇帝による改革としては、エカチェリーナ2世の啓蒙主義による改革、アレクサンドル2世の大改革が行われたが、どれも効果は少なかったと読み取れる⁴。

④ゲーリー・マーカー、(翻訳巽由樹子)によると、印刷技術が輸入された当初、教会印刷所が独占していた印刷業が、教会権威の衰退によって民間印刷所へ普及した。それによって、宗教本以外の出版が盛んになり、出版文化の拡大が知識人層の形成と文学普及を後押ししたと考えられる⁵。

⑤大矢温ロシア近代化をめぐり、スラヴ主義と西欧主義の対立が起きていたが、双方ともに帝政に不満を持っていた。また、雑誌や刊行物を用いた活動が盛んで、文学が議論の主要な舞台となったと分かる⁶。

⑥風刺的な表現や農奴や貴族の生活を描くことで、社会への批判を表明していた。しかし、政府による弾圧や、理想と異なった革命の様相によって、その主義を改める作家も多くいたことが分かった⁷。

⑦ゴーゴリ『外套』『死せる魂』では官僚制や農奴制の腐敗が風刺的に描かれ、社会批判が前面に出る⁸。トルストイ『舞踏会のあと』では、華やかな貴族社会と残酷な刑罰が対比され、帝国の暴力性が浮き彫りにされる⁹。ドストエフスキー『悪霊』では、政府による弾圧を経た作者自身の思想変化を反映し、改革思想や社会主義への批判が描かれていると分かった¹⁰。

①、②、③より、識字能力及び文学の普及を通して近代化を押し進めようとした活動家や、ロシア文学の世俗化、出版業の民営化によって、ロシア文学が手にした社会批判を含んだ思想性が広くロシアの民衆(市民階層)へと広まったと考えられる。また、文学を介して改革思想・知識を得ることで形成された、市民階層の中の知識人層が、貴族に代って主要な文学者となり、その思想に基づいた文学活動を行ったことで、より鮮明な描写や思想表明がなされたことにより、困窮の中にいる市民階層に対して、より大きな説得力を持つ結果となったのではないかと考えられる。

④、⑤より、ロシア文学が発展して以降、知識人などロシア文学により多く触れた人々によって議論、反乱が行われ、ツァーリ主義の皇帝による効力の欠ける改革への不満も相まって、その動きがより活発になっていったと考えられる。加えて⑦より、当時のロシア文学者が文学作品の中に社会批判や、ロシア帝国の負の部分鮮明に描写したことが分かったが、革命や改革の暴力的な側面を目にした後、その思想を変え改革思想批判を行ったことから、ロシア文学はロシアの革命の根幹に大きな影響を与え、改革思想の確立及び拡大に寄与したものの、改革の人道性の面における形を提示するには至っていなかったのだと考えられる。これは、ロシア文学が、社会そのものやそれに対する批判の表現を命題としてきたが、それと同時にすべき、文学者が目指す理想の改革や社会の表現が欠落していたことも示唆していると考えられる。

5. 結論及び今後の展望

ロシア文学は社会改革の議論を推進し、民衆の意識形成に大きな影響を与えたことが明らかになった。文学者自身が改革思想の担い手となり、作品を通して社会批判を展開した点は特筆される。しかし、革命の暴力性を目の当たりにした文学者の多くは理想と現実の乖離に失望し、文学は批判精神を広める役割を果たしたものの、改革の具体的な方向性を提示するには至らなかった。文学と社会運動の相互作用は強かったが、その結末は必ずしも文学者の理想と一致しなかったのである。今後の展望として、ロシア革命後の文学作品と以前の作品とを比べ、ロシア文学者がロシア社会に何を提示していたのかを解明していきたい。

引用文献

- 1 巽由樹子(2008)『ロシア帝国の公共図書館—「大改革」後ロシア社会における読者層拡大の検証—』
- 2 巽由樹子(2006)、『革命前ロシアの民衆読書教育と国民意識形成—1870年代から20世紀初頭—』
- 3 木村彰一・北垣信行・池田健太郎。(1988)、『ロシア文学史』.明治書院.
- 4 三城俊一・高宮サキ・野中直美著。(2022)『地政学×歴史で理由がわかるロシア史キエフ大公国からウクライナ侵攻まで』.祝田秀全監修.かみゆ歴史編集部編集.朝日新聞社.
- 5 ゲーリー・マーカー、巽由樹子(翻訳)(2014)、『ロシア出版文化史：18世紀の印刷業と知識人』.成文社
- 6 大矢温(2014)、『古典的スラヴ派の言論活動』
- 7 中村喜和(1977)、『ロシア文学案内』.朝日出版社.
- 8 ニコライ・ゴーゴリ、東海晃久(翻訳)(1977)、『死せる魂』.河出書房新社.
- 9 草鹿外吉(1976)、『世界短編名作選』.新日本出版社.
- 10 F.M.ドストエフスキー、小沼彦彦(翻訳)(1967)、『ドストエフスキー全集—悪霊—』.筑摩書房

女性天皇論争における大嘗祭理解の歴史的前提の検証

(The Historical Premises of the Daijōsai Ceremony in the Debate on a Female Emperor)

清風南海高等学校 2年A組 竹内洗貴

Abstract: In recent years, Japan has been considering the possibility of permitting a female emperor. Rather than evaluating the merits of this issue, this study examines the historical premises underlying contemporary understandings of the Daijōsai Ceremony by analyzing its historical formation and the development of the modern institutional system.

Keywords: Daijōsai Ceremony, a Female Emperor, historical significance, modern period, imperial rituals

1. 研究背景

近年、皇族数の減少に伴い、男系男子に限る現行の皇位継承制度の見直しが議論され、女性天皇の容認も選択肢として検討されている。そのような状況の中、近代以降の宮中祭祀は基本的に男性天皇を前提に構築されているため、女性天皇が実現した場合、宮中祭祀の執り行い方に変更が生じる可能性が高い。また、先行研究において、女性天皇論争の前提のひとつである大嘗祭への理解が、どのような歴史的過程で形成されてきたのかについては十分に検証されていない。そこで本研究では、宮中祭祀の中でも天皇一代につき一度の重要な祭祀である大嘗祭に着目し、女性天皇をめぐる議論がどのような歴史的前提の上に構成されているのかを、歴史的背景と現行制度を踏まえて明らかにする。

2. 研究目的・意義

本研究は、女性天皇の是非を問うものではなく、現在の女性天皇論争において、大嘗祭への理解がどのような歴史的過程で形成されたのかを可視化することを目的とする。そのうえで、女性天皇が実現した際に必要となる制度検討の前提条件を明らかにする。

3. 研究方法

- ①大嘗祭の歴史的意義を宮内庁の資料に基づいて整理し、女性天皇が大嘗祭を執り行う場合の歴史的前提がどのように形成されてきたのかを調査した。
- ②過去に存在した女性天皇が大嘗祭をどのように執り行ったかを、『日本書紀』や『続日本紀』といった文献をもとに調査した。
- ③大嘗祭の現行の執り行い方をもとに、女性天皇が即位した場合の儀礼の変更点について、歴史的背景をもとに検討した。

4. 結果・考察

①大嘗祭の歴史的意義と女性天皇

宮内庁の資料に基づくと、大嘗祭は、日本の稲作文化に基づく古くからの収穫儀礼に根ざした祭祀である。大嘗祭において天皇は、大嘗宮で新穀を天照大神とすべての神に供え、自らも口にすることで、皇祖と神々に感謝を示すとともに、国家と国民の安寧や五穀豊穰を祈る、という役割を持つ。大嘗祭は起源を新嘗の祭に持ち、その新嘗の祭は『古事記』や『日本書紀』の記述から、その起源はこれらが編纂された奈良時代以前にまで遡ることができる。毎年実施される新嘗の祭と大嘗祭が区別されたのは7世紀後期の天武天皇の治世であり、平安時代には現在の大嘗祭の原型が整えられた。天武天皇以降、大嘗祭は一世に一度行われる重要な皇位継承儀式とされ、歴代天皇は、即位後必ずそれを行われることが皇室の伝統となっている。近代以降の制度整備において、大嘗祭の儀礼の装束や作法、参加する神職の性別の役割などが男性天皇向けに規定されたうえ、同時期に男性天皇が祭祀の中心となる象徴構造が成立した。このような点において、女性天皇が大嘗祭を執り行うことに歴史的意義と齟齬が生じる可能性がある。ただし、これらは近代以降に制度化された前

提であり、それ以前の歴史的背景を踏まえると、大嘗祭を執り行う意義は、儀礼を継承してきた天皇が祭祀主となる、という点にあると考えられる。

②過去の女性天皇と大嘗祭

日本の歴史には10代8名の女性天皇が存在した。古代においては690年に即位した持統天皇について『日本書紀』巻30持統天皇5年(691年)の「十一月戊辰大嘗。(11月26日、大嘗)」という記述や、707年に即位した元明天皇について『続日本紀』巻4和銅元年(708年)の「己卯大嘗。遠江但馬二國供奉其事。(11月26日。大嘗。遠江国と但馬国の2国がこれに供奉した)」という記述から、大嘗祭が行われたことが確認できる。このようなことから、古代の女性天皇は大嘗祭を執り行っていたとわかる。また、最後の女性天皇である江戸時代の後桜町天皇についても大嘗祭は執り行われ、大嘗祭の装束である御斎服と帛御服に関して、前者は男子同様の仕立てで、後者は白平絹の裳唐衣五衣を着用していたとのことである。以上より、近世においても女性天皇が大嘗祭を執り行っていたことが確認できる。

③女性天皇が即位した場合の大嘗祭の変更点

女性天皇が大嘗祭を執り行う場合に考えられる変更点には①装束②神職の性別的役割③近代以降の象徴構造といった点が挙げられる。

①現在の制度では男性天皇専用の装束である「黄櫨染御袍」を着用することになっている。これに関する変更案としては(1)女性天皇用の装束の新設(2)男女共通の装束を設定、といったことが考えられる。(1)に関して、江戸時代の明正天皇や後桜町天皇は、男性天皇の黄櫨染に相当する束帯として白の無地を用いており、歴史的なつながりを求めるのであれば、このような装束をもとにすることも検討される必要がある。

②現在、大嘗祭に関わる神職・供奉員・装束司などが多くが男性中心で構成されている。これに関して、(1)儀礼担当者の性別的役割の廃止(2)女性天皇専用の補佐制度の整備(3)現在の構成のまま、といったことが考えられる。この神職らの構成は近代以降に制度化されたものであるうえ、古代や近世の女性天皇が大嘗祭を行った際の儀礼に関わる神職構成の詳細な記述は限られている。また、性別に関する解釈は時代によって変化するため、時代に即した制度の検討が必要である。

③現在は明治以降の制度をもとに、男性天皇が祭祀の中心であるという象徴体系が成立している。これに関して(1)天皇について性別を問わない「祈りの主体」として再解釈する(2)古代の女性祭祀者との連続性を強調する(3)儀礼の一部を性別に依存しない形に変更する、といったことが考えられる。この象徴体系が成立したのは近代以降であり、近世以前には女性天皇も祭祀主として大嘗祭を執り行っていたため、歴史的には(2)の連続性の強調や、それに伴う(1)の再解釈が可能であると考えられる。

5. 結論及び今後の展望

本研究では、女性天皇論争がどのような歴史的前提の上に成り立っているのかを、大嘗祭を対象として検討してきた。その結果、大嘗祭に関する象徴体系や制度構成への理解は、古代から一貫して存在してきたものではなく、主に明治以降の制度整備の過程で形成されたものであることが明らかとなった。したがって、女性天皇が即位した場合に生じる大嘗祭をめぐる問題は、「伝統を守るか否か」という単純な二項対立では捉えられず、近代に形成された制度的前提をどの範囲まで継承するのか、どの時代の制度を選択するのかという問題として再定義されるべきである。今後の研究では、女性天皇が即位した場合における大嘗祭の具体的な変更点について、さらに詳しく考察したい。

引用文献

- ・宮内庁ホームページ「大嘗祭について」<https://www.kunaicho.go.jp/kunaicho/shiryo/tairei/pdf/shiryo011002-7.pdf>
- ・国書データベース『日本書紀』<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/100401415/21?ln=ja>
- ・国書データベース『続日本紀』<https://kokusho.nijl.ac.jp/biblio/100213283/87?ln=ja>
- ・野村玄(2006年)「女帝後桜町天皇の踐祚とその目的」(『日本歴史』701号)
- ・高木博志(1997年)『近代天皇制の文化史的研究 一天皇就任儀礼・年中行事・文化財』,校倉書房

コミンテルンの政策転換が バルカン社会主義連邦構想の失敗にどう影響したか

How the Comintern's Policy Shift Influenced the Failure of the Balkan Socialist Federation

清教学高等学校 1年H組 津曲七星

Abstract: By analyzing primary sources like Lenin's works, this study explores the Balkan Socialist Federation's collapse. It argues that Stalin's transition from internationalist idealism to national-interest-driven realism prioritized Soviet security and that this shift toward forced secessionism destroyed the federation's cooperative foundation, offering historical insights into modern regional integration.

Keywords: Balkan Socialist Federation, Comintern, Stalinism, Secessionism, Integration

1. 研究背景

18世紀以降、バルカン半島のキリスト教徒や知識人はオスマン帝国やハプスブルク帝国による支配からの解放を目指す。その中で発足したバルカン連邦構想は、被抑圧民族による民族再生の闘争だ。

フランス革命を契機に波及したナショナリズムは、民族が自ら運命を決める「近代化」の希望だった。バルカンでも例外なくナショナリズムが各地で勃興。政治的解放が民衆自身の行動で達成されることを示し、連邦構想を目指す知識層の活動が急進化した。さらに同時期に生じた産業革命は、経済的な自由主義がブルジョワジーのような独立した諸個人からなる近代市民をうみ、資本主義社会を形成した。その中で抑圧された下層民や労働者は、従来の民族的な抑圧に加え新たな対抗運動の担い手となった。つまりバルカン問題は諸民族間の対立・階級間の対立といった複数の内在的要因と、列強の帝国主義的利害が衝突しつつも、バルカンの諸民族が単独で帝国列強に打ち勝てないという外在的要因が絡む複雑な状況にあった。したがって、ブルジョワジー主体の社会に対抗する社会主義的な「バルカン連邦」の樹立が、バルカン内の諸民族間対立克服と帝国列強からの民族解放とを同時に達成する理想的な手段と考えられていた。

一方ボリシェヴィキは、第一次大戦で自国政府を支持した第二インターに所属する各国共産党の「裏切り」を排し、プロレタリア国際主義の下で世界革命を目指す「コミンテルン」を創設し、「ロシア革命の継続にはヨーロッパで革命の連鎖が必要」と考え、バルカン諸国の共産党とともに「バルカン社会主義連邦」の樹立を目標に掲げた。目標はより大きな地域統合指向と階級的課題をコミンテルンと共有し、国際主義的な基盤に基づいていた。

バルカンを研究し始めた契機は、セルビアの公共交通機関が「コソボはセルビアです」と日本語を含む多言語で電車のラッピングを行っていたのを見たことにある。様々な人が乗り合わせる電車にまでも自国の主張を多言語で刻もうとする姿勢に圧倒された。それまで勉強してきた過去の歴史的背景と現代を生きる人々の民族意識が地続きに結びつき驚いた。当初はバルカン内部の民族問題を主題としたが、文献調査を進めるにつれ、バルカン政治史におけるソ連との関係性へとテーマが広がった。上記関心の変遷から、このテーマに焦点を定めるに至った動機はバルカン地域が「欧州の火薬庫」と称される複雑な民族事情を抱えつつも、統一を志す壮大で波乱な政治運動に強く魅了されたからだ。

2. 研究目的・意義

コミンテルンの政策転換、とりわけスターリン主義への移行が、バルカン連邦構想に与えた影響を考察した先行研究はこれまでにない。例えば(木戸,1979)などは十月革命頃にはまだレーニンの主張にスターリンが応じていたと述べ、一方(上島,2007)は1920年ごろの両者の往復書簡に言及しながら政策意向の違和があったとする。しかし、バルカン地域への影響に言及する記述はほぼなく、(木戸,1979)の時点から先行研究の進捗はほぼない。本研究の目的は特に木戸の研究を踏まえ、さらに邦訳『レーニン全集』及び『スターリン全集』を精査しながら、スターリン主義への移行でコミンテルンが分離政策へと急速に方針転換した理由、及びその方針転換で民族政策がどう変化し、それがバルカン連邦構想失敗にいかに関与したかを検討する。

かつて多民族共存と民族解放を志したバルカン諸民族の連邦構想失敗、加えて本稿では扱わないが、第二次大戦後に「兄弟愛と統一」を標榜したユーゴスラヴィアが、最終的に欧州最悪の紛争に陥った事例の分析は、現代のEUに代表される地域統合や国際的共存を考える上で重要な歴史的意義を持つ。本稿は、現代においても民族意識が強く可視化されるバルカン地域への興味を出発点とし、こうした歴史的運動が失敗したプロセスを自ら分析する。民族統合という理想がいかなる局面で現実との乖離を生むのか。歴史が取りこぼした他者との共存の可能性を検討する。

3. 研究方法

近代ヨーロッパで展開したナショナリズムと産業革命の歴史的背景、その過程で生じた社会主義運

動、さらにコミンテルン創設については上記「1.研究背景」で整理した。ここからは当時のコミンテルンの機関紙やレーニン全集などの資料を通じて、レーニン体制からスターリン主義への転換が、コミンテルンの政策転換とバルカン社会主義連邦構想に及ぼした影響を分析する。

4. 結果・考察

バルカン社会主義連邦が失敗に終わった主要因は、コミンテルンの指導原理がレーニンの「理想主義に基づく世界革命」から、スターリンの「ソ連の利害と存続を優先した現実主義」へと変化したことで、バルカン諸国の細分化を促進する「分離政策」を前面に押し出し始めた点にあると考察した。

コミンテルン第二回大会で、「民族・植民地問題に関するテーゼ」を巡るレーニンとスターリンの対立が顕在化する。レーニンはその原案で、バシキール型の条約共和国と、ウクライナ型の自治共和国の二つの国に区別した²。そうした国を含む連邦制は「過渡的な形態」³いわば手段であり、ロシア共産党中央の中央集権は民族の分離を前提とした最終的な国家の死滅、つまり「国際ソヴェト共和国」の樹立により解消されるとした。しかしスターリンはソ連の安定にこだわり「死滅論は役に立たない理論だ！」⁴と力説。先述の二か国のような連邦内自治の区別を認めず「両者の間には相違はなく、あってもごく小さい⁵」と返書した。自治がソ連からの独立運動の種火となると危惧したからだ。さらに1923年ロシア共産党中央委員会第4回協議会で「ソ連は単一の連邦国家であり、連合制は連邦制に比べてロシア構成各国の自治を過度に拡大させる⁶」と批判。ソ連構成各国の自治を限定し、ソ連という単一国家の安定を優先した。このように両者の対立の核心は、連邦のあり方に対する根本的な見解の違いにあった。レーニンの国際的な革命戦略を根本から否定し、独立共和国をロシア共和国に取り込むという考えは、まさにスターリン自らが批判していた帝国主義政策と同じであった。

以上の点から、第二回大会で顕在化した両者の政策不一致は、コミンテルンの政策の方向性を大きく左右した。1924年のレーニン死後、スターリンが一国社会主義論を打ち出したことにより、反スターリン派との対立が深まるが、最終的にスターリン派が主導権を握る。後の粛清や分離主義などの強硬策をコミンテルンにも反映させ、コミンテルンを自らの方針に忠実な組織へと作り変えてしまう。

このころポーランドでの対ソ工作活動、西ウクライナ共産党の離反などソ連を取り巻く国際環境の変化は、ようやくソ連の政治的実権を握ったスターリンの足場を揺るがした。少しでも国家と自身の不安の種は看過できないとし、コミンテルンの対外政策に大きな見直しを迫る。同時期にスターリン派は資本主義諸国間の戦争対立を予測⁷し、相次ぐ民族問題はより一層指導者たちの警戒心を深めた。このようにソ連を取り巻く国内外の敵や、社会主義国建設に抵抗する脅威を排除する風潮が広まった。

こうしたスターリン体制下、コミンテルン第五回大会においてスターリン派がバルカン民族問題に関して分離主義的方針を推進する発言を行った⁸。バルカン内部の頻繁な内戦勃発やクーデターにつながる深刻な政治危機を資本主義情勢の影響だと述べた。その後、英露断交でイギリスの影響力が拡大し、バルカンでの反ソブロック形成が危惧された⁹ことで、ソ連の利害を懸念したソ連は自国の脅威排除を最優先し、バルカン新興国家の分離解体をコミンテルンの政治的目標¹⁰とした。つまり、コミンテルンによるバルカン民族問題の急激な分離主義政策は、ソ連という一つの国家の利害を優先しバルカンの各共産党に押し付けられた形となった。

5. 結論及び今後の展望

コミンテルンの指導原理が、レーニン時代、プロレタリア国際主義に基づく「理想主義に基づく世界革命」から、スターリンの民族政策を背景として「ソ連の利害と存続を優先したスターリン主義」へと転換した。その結果、コミンテルンとバルカン諸国の共産党の利害一致によって実現しかけたバルカン社会主義連邦構想は、ソ連の体制維持を最優先するコミンテルンの「分離主義」によって基盤を破壊され、失敗に至ったと分析した。

本稿ではコミンテルンがバルカンに及ぼした影響に焦点を当てたが、今後はバルカン固有の複雑な民族問題の側面からも検討を進めたい。さらに、1930年代のファシズム台頭という国際情勢の変化の中で、コミンテルンの政策転換がバルカン地域にどれほど決定的な打撃を与えたのか、あわせて、第二次大戦前の連邦構想失敗が戦後に再度浮上し、それに対してソ連がいかなる再干渉を行ったのかという連関も明らかにしたい。のちに連邦国家として成立したユーゴスラヴィアが拡大を果たし得なかった理由、ならびに同地域が平和構築の先駆例でありながら1990年代に民族紛争へと転化した要因についても、今後の重要な研究課題である。

参考文献・引用文献

木戸肇(1979)『コミンテルンとバルカン民族問題(II)』中央公論新社。
佐々木太郎(2025)『コミンテルン国際共産主義運動とは何だったのか』中央公論新社。
上島武(2007)『ロシア革命と民族問題(その三)レーニンの遺書をめぐって』。
M.マゾワ、井上廣美(編訳2001)『バルカン・「ヨーロッパの火薬庫」の歴史』中央公論新社。(Mark Mazower. (2000). THE BALKANS. The Wylie Agency (UK))
L. トロツキー、早川謙(編訳)『バルカン問題と社会民主主義』(Л.Троцкий. (1926). Балканский вопрос и Социал-демократия. *Сочинения*. Том 6. Балканская война. Мос. Лен) マルクスレーニン主義研究所レーニン全集刊行委員会(編訳)(1957)『レーニン全集』20巻。大月書店。pp.424-425 / pp.438-439
スターリン全集刊行会(編訳)(1952)邦訳『スターリン全集』2巻。大月書店。pp.342 / p.345 / pp.373-374 / pp.392-393 / p.397 / pp.399-400
岡本和彦(2008)『スーベイン内戦期のユーゴスラヴィア共産党-チトー指導部確立との関連で』柴宜弘(1996)『ユーゴスラヴィア現代史』岩波書店。
村井津(1993)『レーニンの民族問題についての思想と現代』
瀧和敏ほか(2023)『国際関係学』滝田賢治、大茂亮、都留康子編。有信堂高文社。

中井肇(2025)『ナショナリズムとは何か』中央公論新社。
ズボニコ・シタウプリングル、岡崎慶興(編訳)(1980)『チトー・独自の道—スターリン主義との闘い』。サイマル出版会。(Zvonko Stauringer. (1976). *TitovolstorijskoNeStaljinizmu.RadnickaStampa*)
塩川伸明(2008)『民族とネーションナショナリズムという難問』岩波書店。
佐藤徳哉、柴宜弘、金原保夫、木村真、六鹿茂夫、山崎信一、中島崇文(2024)『バルカン史上・下』。山川出版社。
Loukianos Hassiotis, 2010, The ideal of Balkan unity from a European perspective (1789-1945)
R.Craig Nation, 2003, CHAPTER 2 THE BALKANS IN THE SHORT 20th CENTURY, WAR IN THE BALKANS, 1991-2002, Strategic Studies Institute, US Army War College. pp.43-90
Imprecor. Vol. 9, No. 21 (1929, May 3), pp. 461-146
ЦК КПСС.1991. Известия ЦК КПСС, информационный ежемесячный журнал, Центр. Ком. та КПСС, No.4, стр.171
The 2nd National Congress of the Communist International Petrograd, July 19-August 7, 1920, Report on National and Colonial Question (Lenin), Fourth Session, July 25

1 木戸肇(1979)『コミンテルンとバルカン民族問題(II)』p.172
2 マルクスレーニン主義研究所レーニン全集刊行委員会(編訳)(1957)邦訳『レーニン全集』31巻p.138
3 マルクスレーニン主義研究所レーニン全集刊行委員会(編訳)(1957)邦訳『レーニン全集』31巻p.138
4 ジョレスメドヴュージェフ、ロイメドヴュージェフ、久保英穂(編訳)(2003)『知られざるスターリン』現代思潮新社.p.359 (Zhores A. Medvedev, Roy Medvedev. (2001). *Неизвестный Сталин. Права человека.*)
5 Jeremy Smith, 1999, The Bolsheviks and the national question 1917-1923, ProQuest LLC, pp.285-287

6 J. V. Stalin, 1953, J. Stalin works, Vol. 5, Foreign Languages Publishing House, pp.297-348.
7 L. トロツキー、志田昇、湯川順夫・西島栄(編訳)『コミンテルン秘蔵の「第三期」』(Л.Троцкий.(1930). "Третий период" ошибкой Коминтерна. *Бюллетень Оптимизм*, No.8, Январь)
8 The Communist International, Vol. VIII, No.7(Oct.15,1931), pp.538-543
9 Imprecor, Vol. 8, No. 44 (1928, Aug. 3), pp 783-785
10 The Communist International, December 1924-January 1925, Iss 7, pp.93-97